

綾町男女共同参画基本計画策定のためのアンケート調査概要

1 調査の目的

綾町における男女共同参画社会の形成に向けて、町民・綾町の事業所で働く皆さんの男女共同参画に関する意識と実態を把握し、「綾町男女共同参画基本計画」策定と今後の施策の充実を図るための基礎資料とする。

2 調査の実施概要

- (1) 調査地域：綾町全域
- (2) 調査対象：①綾町在住の 20 歳以上の男女 300 人
②綾町の事業所で働く方 600 人
- (3) 抽出方法：①住民基本台帳より無作為抽出
②町内事業所 8 事業所
- (4) 調査方法：郵送配布・回収、協力をお願い（広報あや） 1 回
- (5) 調査期間：平成 28 年 12 月 6 日から 12 月末

3 回収状況

標本数 900 (① 300 ② 600)

回収数 ① 167 (回収率 55.7%) ② 432 (回収率 72.0%)

4 他調査との関係性について

本アンケート調査の分析にあたり、他調査との比較を行える。比較できる資料は以下のとおりである。

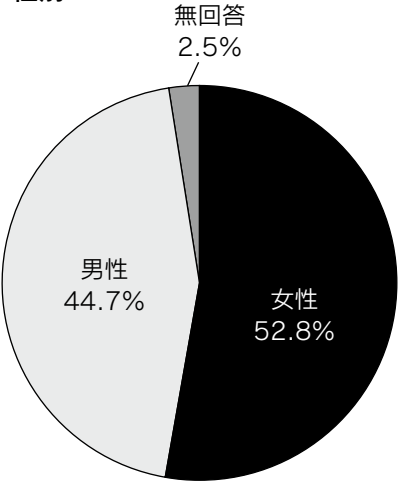
宮崎県「男女共同参画社会づくりのための県民意識調査」(平成 28 年(2016 年) 3 月)

内閣府調査「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成 28 年(2016 年) 9 月)

(1) 性別

有効回答数599件のうち、女性52.8%、男性44.7%、無回答2.5%の割合となっている。

F-1 性別

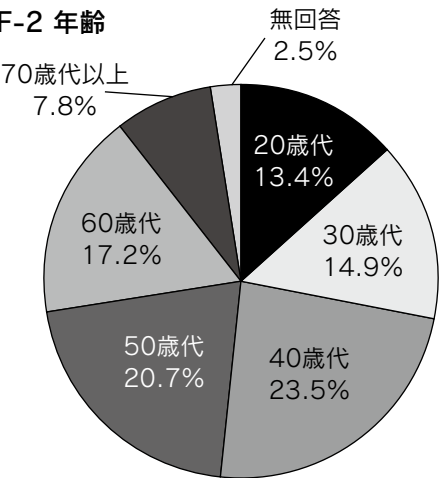


上段：度数	全体	女性	男性	無回答
下段：%				
全体	599	316	268	15
	100.0	52.8	44.7	2.5
20歳代	80	35	45	0
	100.0	43.8	56.3	0.0
30歳代	89	57	32	0
	100.0	64.0	36.0	0.0
40歳代	141	76	65	0
	100.7	53.9	46.1	0.0
50歳代	124	75	48	1
	100.0	60.5	38.7	0.8
60歳代	103	54	49	0
	100.0	52.4	47.6	0.0
70歳代以上	47	18	29	0
	100.0	38.3	61.7	0.0
無回答	15	1	0	14
	100.0	6.7	0.0	93.3

(2) 年齢

最も回答が多かった年代は40歳代（23.5%）となっており、次いで50歳代(20.7%)となっている。

F-2 年齢



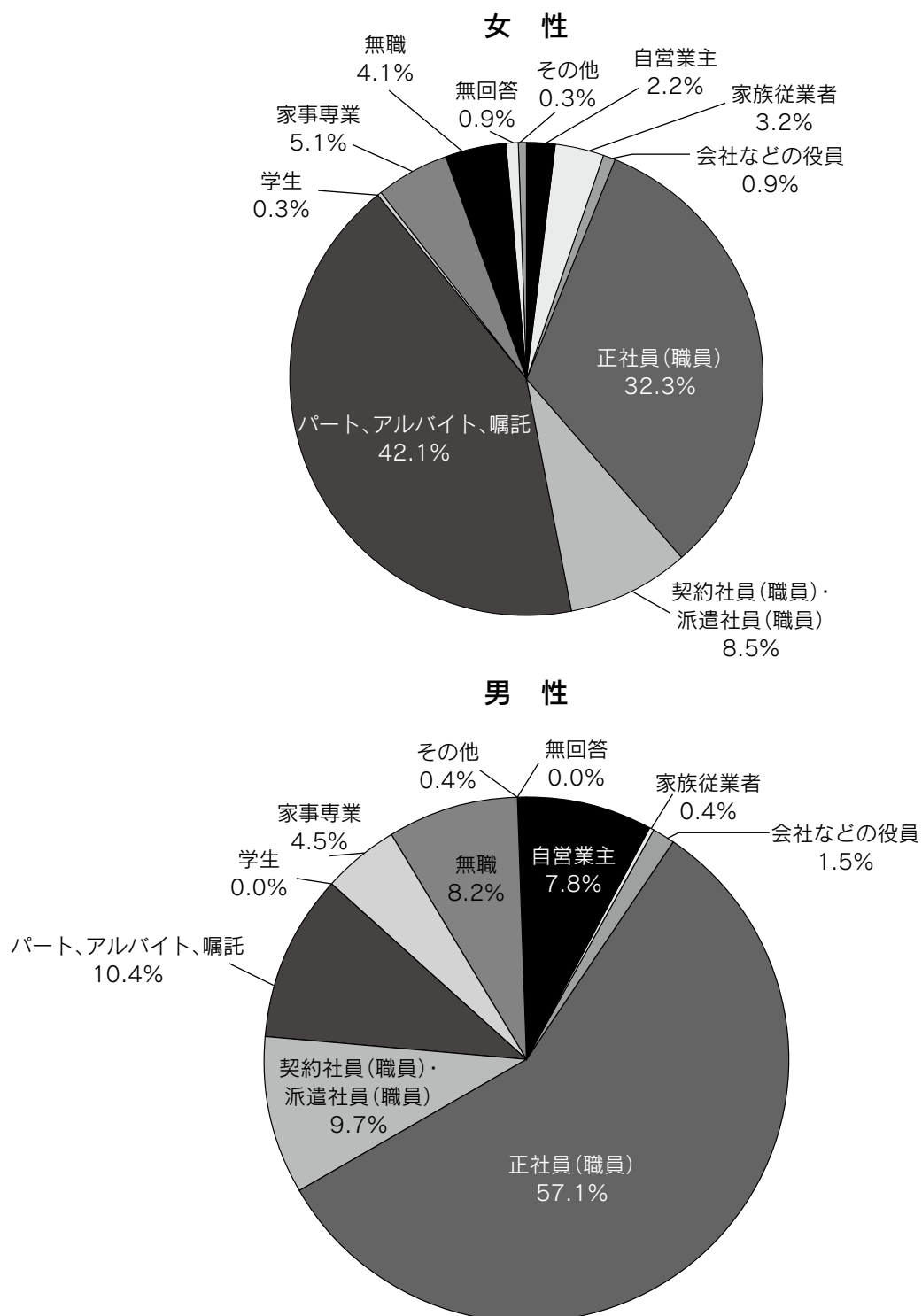
上段：度数	全体	女性	男性	無回答
下段：%				
全体	599	316	268	15
	100.0	100.0	100.0	100.0
20歳代	80	35	45	0
	13.4	11.1	16.8	0.0
30歳代	89	57	32	0
	14.9	18.0	11.9	0.0
40歳代	141	76	65	0
	23.5	24.1	24.3	0.0
50歳代	124	75	48	1
	20.7	23.7	17.9	6.7
60歳代	103	54	49	0
	17.2	17.1	18.3	0.0
70歳代以上	47	18	29	0
	7.8	5.7	10.8	0.0
無回答	15	1	0	14
	2.5	0.3	0.0	93.3

(3) 雇用状況

事業所にもアンケート調査を行っているため有職者数が多い傾向にある。

女性では、「パート、アルバイト、嘱託」(42.1%)、「正社員」(32.3%)、「契約社員(職員)・派遣社員(職員)」(8.5%)の順で、有職者の割合は89.2%となっている。

男性では、「正社員(職員)」(57.1%)、「パート、アルバイト、嘱託」(10.4%)「契約社員(職員)・派遣社員(職員)」(9.7%)の順で、有職者の割合は86.9%となっている。



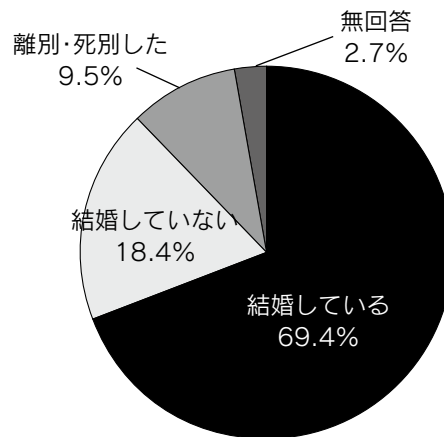
上段:度数 下段:%	全体	自営業主	家族従業者	会社などの 役員	正社員(職 員)	契約社員(職員)・ 派遣社員(職員)
全体	599 100.0	28 4.7	11 1.8	7 1.2	255 42.6	53 8.8
女性	316 100.0	7 2.2	10 3.2	3 0.9	102 32.3	27 8.5
男性	268 100.0	21 7.8	1 0.4	4 1.5	153 57.1	26 9.7
無回答	15 100.0					
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
上段:度数 下段:%	パート、アルバ イト、嘱託	学生	家事専業	無職	その他	無回答
全体	161 26.9	1 0.2	28 4.7	35 5.8	2 0.3	18 3.0
女性	133 42.1	1 0.3	16 5.1	13 4.1	1 0.3	3 0.9
男性	28 10.4	0 0.0	12 4.5	22 8.2	1 0.4	0 0.0
無回答						15 100.0
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

上段:度数 下段:%	全体	自営業 主	家族従 業者	会社など の役員	正社員 (職員)	契約社員(職 員)・派遣社員 (職員)	パート、アルバ イト、嘱託	学生	家事専 業	無職	その他	無回答
全体	599 100.0	28 4.7	11 1.8	7 1.2	255 42.6	53 8.8	161 26.9	1 0.2	28 4.7	35 5.8	2 0.3	18 3.0
女性 計	316 100.0	7 2.2	10 3.2	3 0.9	102 32.3	27 8.5	133 42.1	1 0.3	16 5.1	13 4.1	1 0.3	3 0.9
20歳代女性	35 35.0			1 1.0	26 26.0		5 5.0	1 1.0	2 2.0			
30歳代女性	57 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	22 38.6	7 12.3	24 42.1	0 0.0	4 7.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
40歳代女性	76 100.0	1 1.3	3 3.9	1 1.3	25 32.9	8 10.5	37 48.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3
50歳代女性	75 100.0	2 2.7	4 5.3	1 1.3	27 36.0	6 8.0	34 45.3	0 0.0	1 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
60歳代女性	54 100.0	3 5.6	3 5.6	0 0.0	1 1.9	6 11.1	29 53.7	0 0.0	5 9.3	5 9.3	1 1.9	1 1.9
70歳代以上 女性	18 100.0	1 5.6	0 0.0	0 0.0	1 5.6	0 0.0	4 22.2	0 0.0	4 22.2	8 44.4	0 0.0	0 0.0
無回答	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
男性 計	268 100.0	21 7.8	1 0.4	4 1.5	153 57.1	26 9.7	28 10.4	0 0.0	12 4.5	22 8.2	1 0.4	0 0.0
20歳代男性	45 100.0	1 2.2	1 2.2	0 0.0	35 77.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 17.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
30歳代男性	32 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	27 84.4	1 3.1	4 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
40歳代男性	65 100.0	4 6.2	0 0.0	1 1.5	54 83.1	3 4.6	2 3.1	0 0.0	1 1.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
50歳代男性	48 100.0	3 6.3	0 0.0	1 2.1	33 68.8	6 12.5	4 8.3	0 0.0	0 0.0	1 2.1	0 0.0	0 0.0
60歳代男性	49 100.0	8 16.3	0 0.0	1 2.0	4 8.2	14 28.6	17 34.7	0 0.0	1 2.0	4 8.2	0 0.0	0 0.0
70歳代以上 男性	29 100.0	5 17.2	0 0.0	1 3.4	0 0.0	2 6.9	1 3.4	0 0.0	2 6.9	17 58.6	1 3.4	0 0.0
無回答	15 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	15 100.0
無回答 計	15 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	15 100.0

(4) 婚姻状況

「結婚している（入籍していない事実婚も含む）」者は全体の約7割（69.4%）を占めている。

F-4 婚姻の有無



上段:度数 下段:%	全体	結婚している	結婚していない	離別・死別した	無回答
合計	599	416	110	57	16
	100.0	69.4	18.4	9.5	2.7
女性	316	231	43	41	1
	100.0	73.1	13.6	13.0	0.3
男性	268	185	67	16	0
	100.0	69.0	25.0	6.0	0.0
無回答	15	0	0	0	15
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0

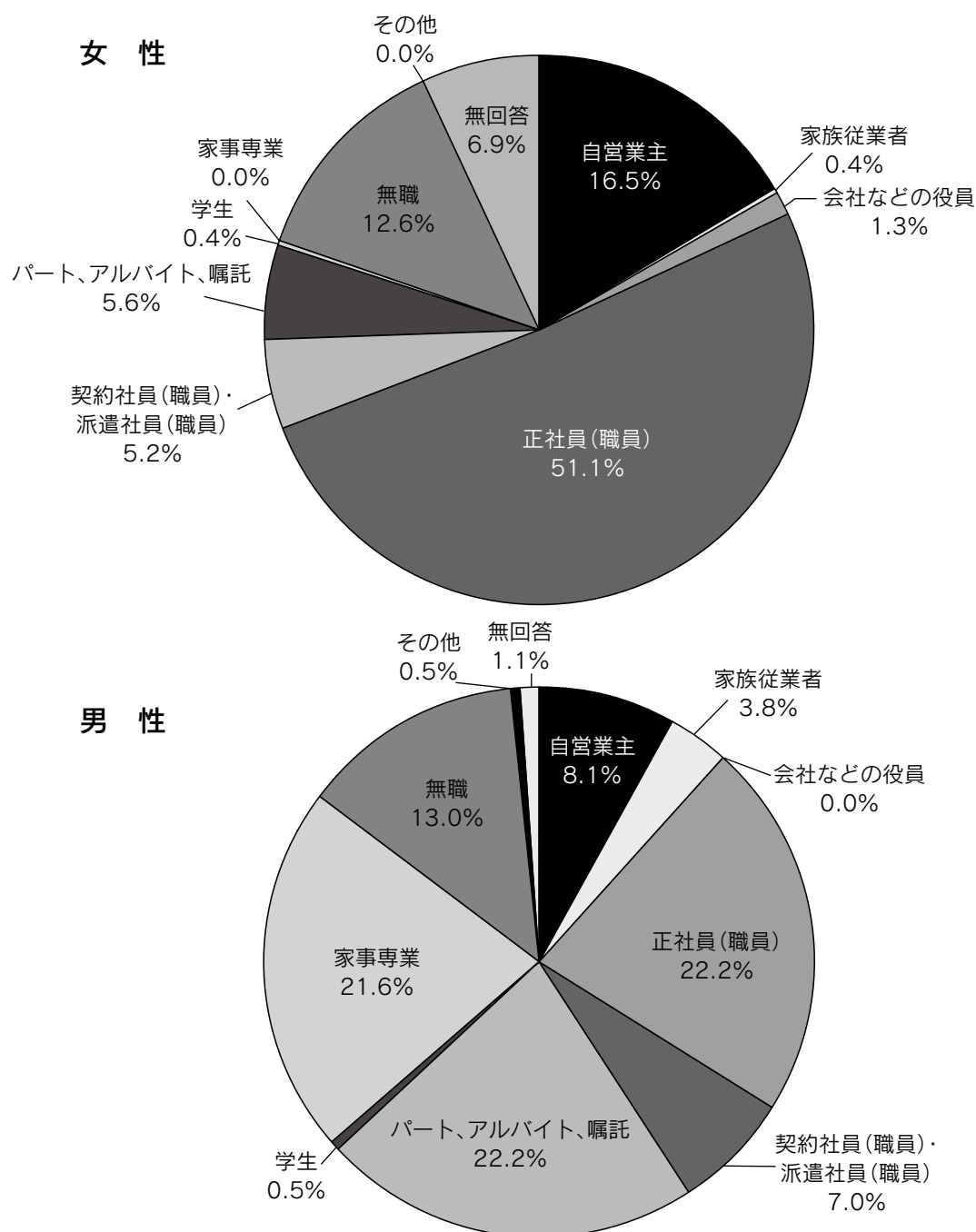
上段:度数 下段:%	全体	結婚している	結婚していない	離別・死別した	無回答
全体	599	416	110	57	16
	100.0	69.4	18.4	9.5	2.7
女性 計	316	231	43	41	1
	100.0	73.1	13.6	13.0	0.3
20歳代女性	35	14	21	0	
	100.0	40.0	60.0	0.0	0.0
30歳代女性	57	44	9	4	
	100.0	77.2	15.8	7.0	0.0
40歳代女性	76	63	4	9	
	100.0	82.9	5.3	11.8	0.0
50歳代女性	75	57	5	13	
	100.0	76.0	6.7	17.3	0.0
60歳代女性	54	41	3	10	
	100.0	75.9	5.6	18.5	0.0
70歳代以上女性	18	12	1	5	
	100.0	66.7	5.6	27.8	0.0
無回答	1	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
男性 計	268	185	67	16	0
	100.0	69.0	25.0	6.0	0.0
20歳代男性	45	7	38	0	0
	100.0	15.6	84.4	0.0	0.0
30歳代男性	32	21	11	0	0
	100.0	65.6	34.4	0.0	0.0
40歳代男性	65	46	14	5	0
	100.0	70.8	21.5	7.7	0.0
50歳代男性	48	40	2	6	
	100.0	83.3	4.2	12.5	0.0
60歳代男性	49	45	2	2	0
	100.0	91.8	4.1	4.1	0.0
70歳代以上男性	29	26	0	3	0
	100.0	89.7	0.0	10.3	0.0
無回答	15				15
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
無回答 計	15	0	0	0	15
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0

(5) パートナーの雇用形態

パートナーの雇用形態について、女性では、「正社員（職員）」（51.1%）が最も多く、次いで「自営業主」（16.5%）、無職（12.6%）の順で、有職者の割合は80.1%となっている。

男性では、「正社員（職員）」、「パート、アルバイト、嘱託」が共に22.2%となっており、次いで「家事専業」（21.6%）、「無職」（13.0%）の順で、有職者の割合は63.2%となっている。

F-5 パートナーの雇用形態

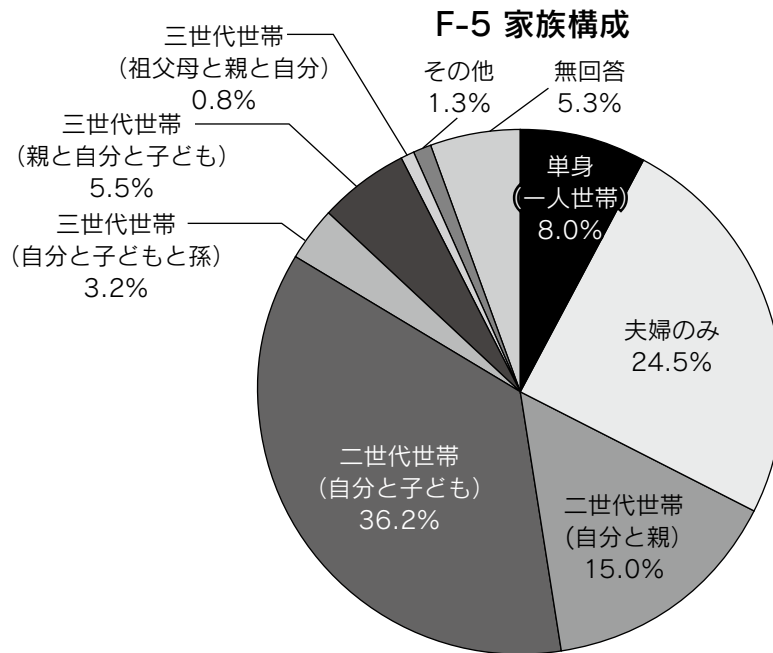


上段:度数 下段:%	全体	自営業主	家族従業者	会社などの 役員	正社員(職 員)	契約社員(職員)・ 派遣社員(職員)
全体	416 100.0	53 12.7	8 1.9	3 0.7	159 38.2	25 6.0
女性	231 100.0	38 16.5	1 0.4	3 1.3	118 51.1	12 5.2
男性	185 100.0	15 8.1	7 3.8	0 0.0	41 22.2	13 7.0
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
上段:度数 下段:%	パート、アルバ イト、嘱託	学生	家事専業	無職	その他	無回答
全体	54 13.0	2 0.5	40 9.6	53 12.7	1 0.2	18 4.3
女性	13 5.6	1 0.4	0 0.0	29 12.6	0 0.0	16 6.9
男性	41 22.2	1 0.5	40 21.6	24 13.0	1 0.5	2 1.1
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

上段:度数 下段:%	全体	自営業 主	家族従 業者	会社など の役員	正社員 (職員)	契約社員(職 員)・派遣社員 (職員)	パート、アルバ イト、嘱託	学生	家事専 業	無職	その他	無回答
全体	416 100.0	53 12.7	8 1.9	3 0.7	159 38.2	25 6.0	54 13.0	2 0.5	40 9.6	53 12.7	1 0.2	18 4.3
女性 計	231 100.0	38 16.5	1 0.4	3 1.3	118 51.1	12 5.2	13 5.6	1 0.4	0 0.0	29 12.6	0 0.0	16 6.9
20歳代女性	14 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	12 85.7	0 0.0	1 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.1
30歳代女性	44 100.0	6 13.6	1 2.3	0 0.0	29 65.9	0 0.0	2 4.5	1 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 11.4
40歳代女性	63 100.0	10 15.9	0 0.0	1 1.6	41 65.1	2 3.2	1 1.6	0 0.0	0 0.0	1 1.6	0 0.0	7 11.1
50歳代女性	57 100.0	14 24.6	0 0.0	2 3.5	28 49.1	5 8.8	1 1.8	0 0.0	0 0.0	7 12.3	0 0.0	0 0.0
60歳代女性	41 100.0	8 19.5	0 0.0	0 0.0	7 17.1	5 12.2	8 19.5	0 0.0	0 0.0	13 31.7	0 0.0	0 0.0
70歳代以上 女性	12 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 66.7	0 0.0	3 25.0
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
男性 計	185 100.0	15 8.1	7 3.8	0 0.0	41 22.2	13 7.0	41 22.2	1 0.5	40 21.6	24 13.0	1 0.5	2 1.1
20歳代男性	7 100.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	2 28.6	0 0.0	3 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
30歳代男性	21 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 47.6	1 4.8	7 33.3	0 0.0	1 4.8	2 9.5	0 0.0	0 0.0
40歳代男性	46 100.0	3 6.5	3 6.5	0 0.0	13 28.3	4 8.7	14 30.4	1 2.2	7 15.2	1 2.2	0 0.0	0 0.0
50歳代男性	40 100.0	4 10.0	1 2.5	0 0.0	13 32.5	3 7.5	9 22.5	0 0.0	6 15.0	4 10.0	0 0.0	0 0.0
60歳代男性	45 100.0	5 11.1	1 2.2	0 0.0	4 8.9	3 6.7	6 13.3	0 0.0	17 37.8	7 15.6	1 2.2	1 2.2
70歳代以上 男性	26 100.0	2 7.7	2 7.7	0 0.0	0 0.0	2 7.7	3 11.5	0 0.0	6 23.1	10 38.5	0 0.0	1 3.8
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
無回答 計	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

(6) 家族構成

「二世世代世帯（自分と子ども）」（36.2%）が最も多く、次いで「夫婦のみ」（24.5%）となっている。



上段: 度数	全体	単身	夫婦のみ	二世世代世帯	二世世代世帯	三世世代世帯	三世世代世帯	三世世代世帯	その他	無回答
下段: %		(一人世帯)		(自分と親)	(自分と子ども)	(自分と子どもと孫)	(親と自分と子ども)	(祖父母と親と自分)		
全体	599	48	147	90	217	19	33	5	8	32
	100.0	8.0	24.5	15.0	36.2	3.2	5.5	0.8	1.3	5.3
女性 計	316	24	81	44	125	11	19	0	5	7
	100.0	7.6	25.6	13.9	39.6	3.5	6.0	0.0	1.6	2.2
20歳代女性	35	0	9	18	5	2				1
	100.0	0.0	25.7	51.4	14.3	5.7	0.0	0.0	0.0	2.9
30歳代女性	57	1	9	7	36	1	0	0	2	1
	100.0	1.8	15.8	12.3	63.2	1.8	0.0	0.0	3.5	1.8
40歳代女性	76	4	9	5	47	2	8	0	0	1
	100.0	5.3	11.8	6.6	61.8	2.6	10.5	0.0	0.0	1.3
50歳代女性	75	6	21	8	27	2	7	0	2	2
	100.0	8.0	28.0	10.7	36.0	2.7	9.3	0.0	2.7	2.7
60歳代女性	54	7	24	6	8	3	4	0	1	1
	100.0	13.0	44.4	11.1	14.8	5.6	7.4	0.0	1.9	1.9
70歳代以上女性	18	6	9	0	2	1	0	0	0	0
	100.0	33.3	50.0	0.0	11.1	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
男性 計	268	24	66	45	92	8	14	5	3	11
	100.0	9.0	24.6	16.8	34.3	3.0	5.2	12.0	1.1	4.1
20歳代男性	45	10	1	19	5	0	0	4	2	4
	100.00	22.22	2.22	42.22	11.11	0.00	0.00	8.89	4.44	8.89
30歳代男性	32	3	4	4	17	0	0	1	0	3
	100.0	9.4	12.5	12.5	53.1	0.0	0.0	3.1	0.0	9.4
40歳代男性	65	7	7	11	30	0	9	0	0	1
	100.0	10.8	10.8	16.9	46.2	0.0	13.8	0.0	0.0	1.5
50歳代男性	48	2	16	4	19	2	4	0	0	1
	100.0	4.2	33.3	8.3	39.6	4.2	8.3	0.0	0.0	2.1
60歳代男性	49	1	23	6	11	4	1	0	1	2
	100.0	2.0	46.9	12.2	22.4	8.2	2.0	0.0	2.0	4.1
70歳代以上男性	29	1	15	1	10	2	0	0	0	0
	100.0	3.4	51.7	3.4	34.5	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	15	0	0	1	0	0	0	0	0	14
	100.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	93.3
無回答 計	15	0	0	1	0	0	0	0	0	14
	100.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	93.3

アンケートの分析結果の分析

1 男女平等意識について

(1) 男女の平等感

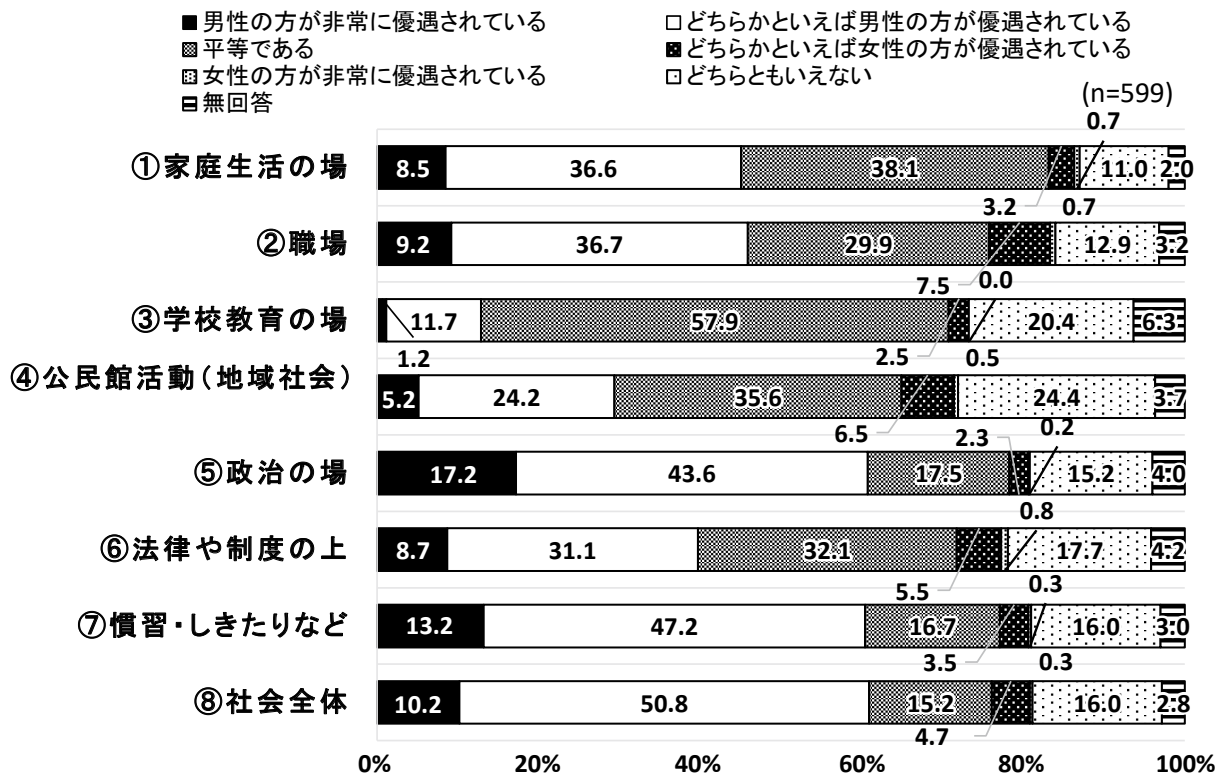
あなたは、次の①～⑧にあげるような分野で、男女は平等になっていると思いますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

社会全体では、平等感を持つ人の割合は1割半ば
「学校教育の場」以外の男性優遇感を持つ人の割合が高い

- 最も「平等である」と感じられているのは「学校教育の場」であり、57.9%となっている。
- 一方で、「学校教育の場」以外では男性優遇感（「男性の方が非常に優遇されている」および「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と感じる割合の合計）をもつ傾向が強い。
- 男性優遇感を持つ人は「社会全体」（61.0%）と最も多く、次いで「政治の場」（60.8%）、「慣習・しきたりなど」（60.4%）となっている。
- 社会全体としては、「平等である」と感じる人の割合は、15.2%にとどまっている。

図表1-1 男女の平等感



(2) 男女平等になるために重要なこと

今後、男女は社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要と思われることは何でしょうか。(○は1つだけ)

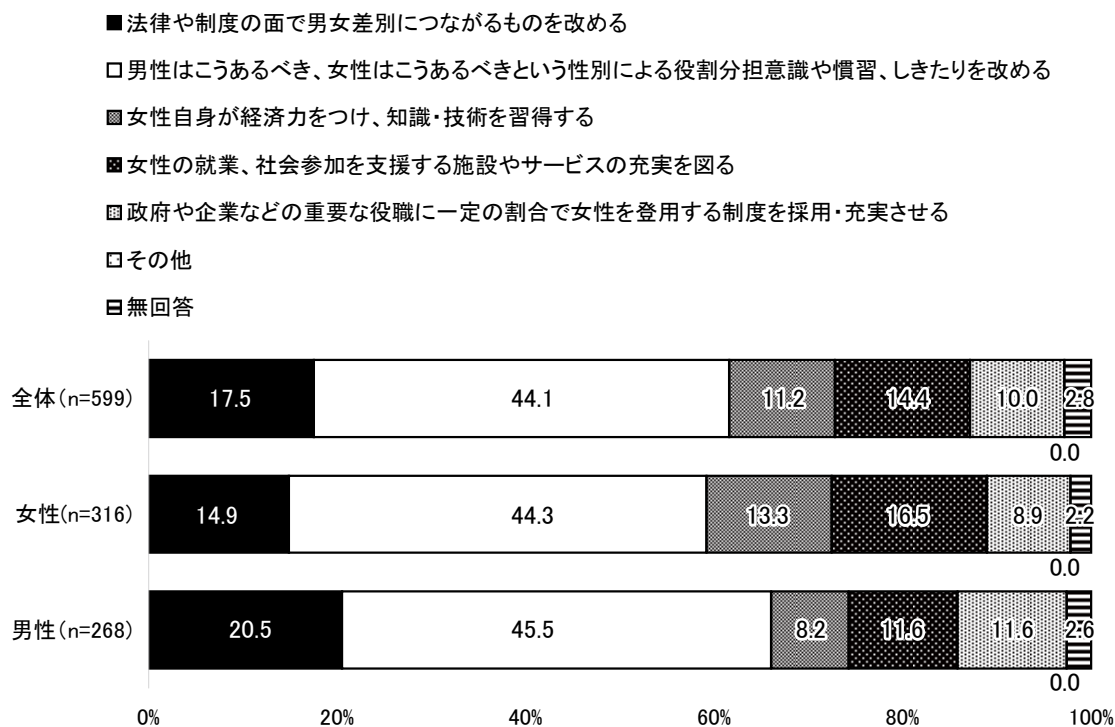
男女平等になるためには、
「男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や慣習、しきたりを改める」ことが重要との考えが4割強

■全体では、「男性がこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や慣習、しきたりを改める」が最も多く、44.1%となっている。

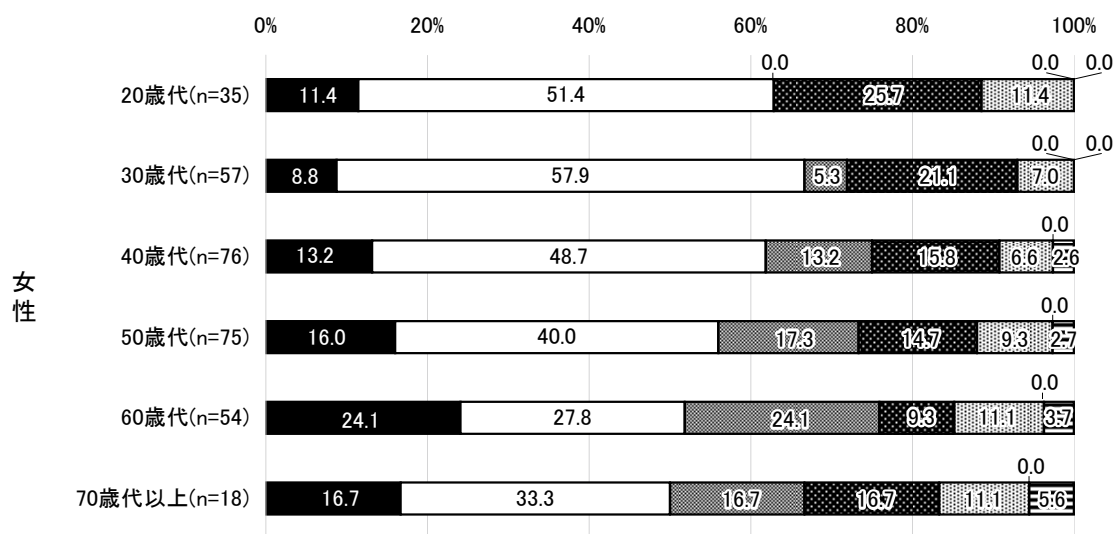
■性別で見ると、最も多い回答は男女とも全体と同じであるが、女性では「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」(16.5%)、男性では「法律や制度の面で男女差別につながるものを改める」(20.5%)との回答が2番目に多くなっている。

■性別・年代別でみると、「男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や慣習、しきたりを改める」は女性の30歳代(57.9%)、男性の20歳代(60.0%)で最も多くなっている。

図表2-1 男女平等になるために重要なこと(性別)



2-2 男女平等になるために重要なこと(性別・年齢別)



■ 法律や制度の面で男女差別につながるものを改める

□ 男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や慣習、しきたりを改める

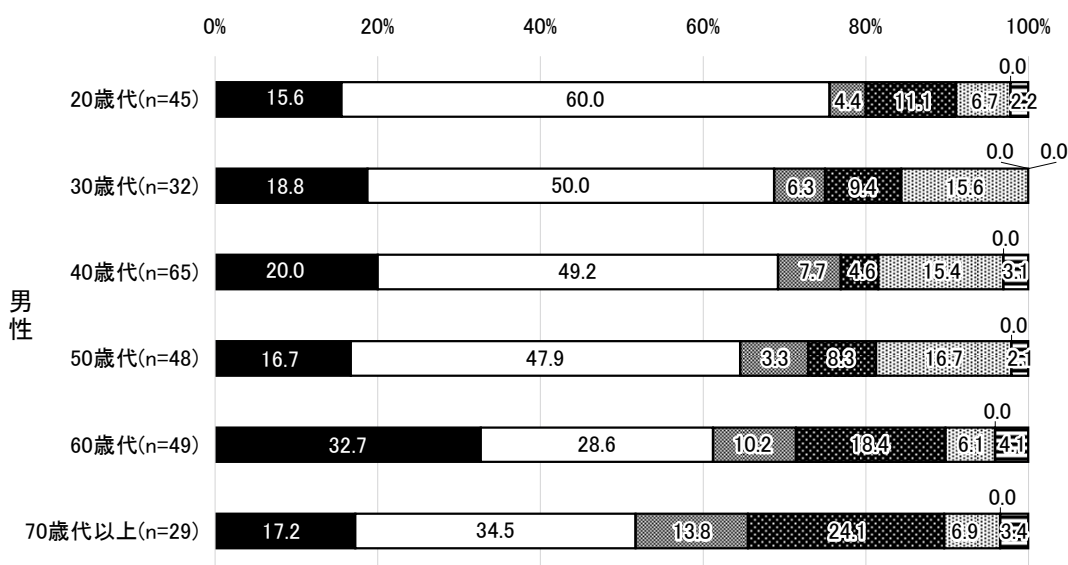
■ 女性自身が経済力をつけ、知識・技術を習得する

■ 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る

■ 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実させる

□ その他

■ 無回答



(3) 男女の役割分担意識についての考え方

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」というような性別によって役割を固定する（決めつける）考え方について、あなたはごどう思いますか。（○は1つだけ）

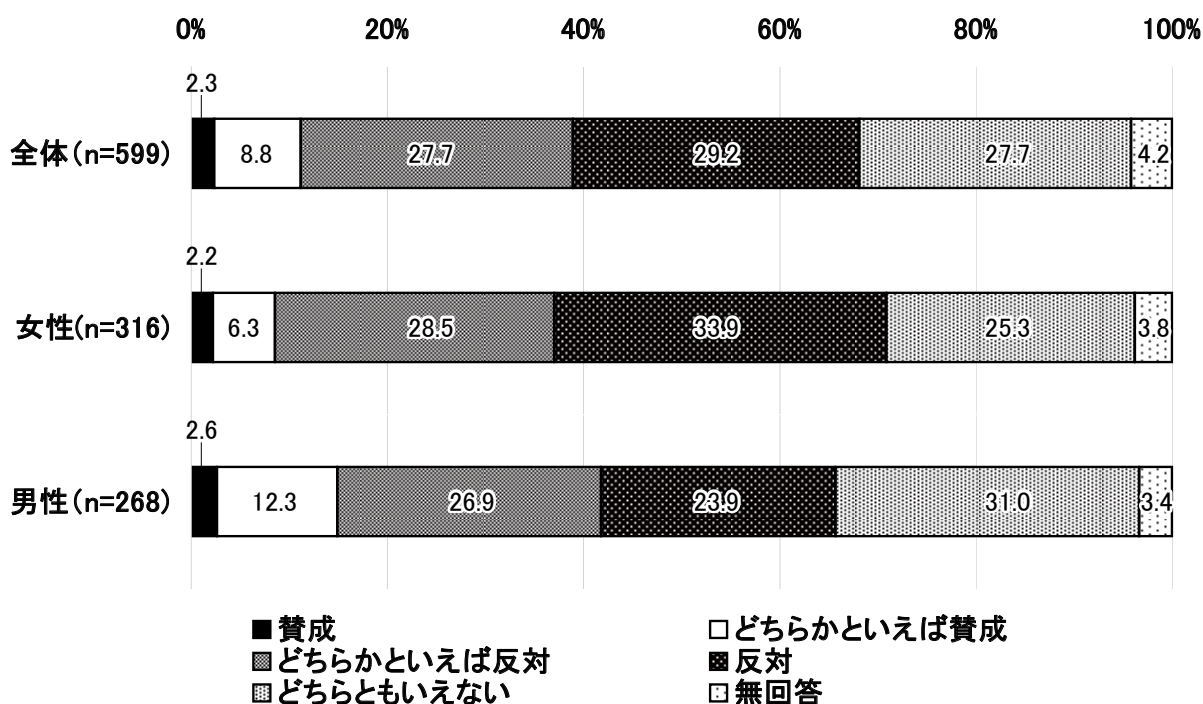
「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」というような性別によって役割を固定する（決めつける）考え方について、『賛成、どちらかといえば賛成』は1割強、『反対、どちらかといえば反対』は6割弱

■全体では、「賛成・どちらかといえば賛成（賛成派）」は11.1%、「反対・どちらかといえば反対（反対派）」は56.9%、また「どちらともいえない」との回答は27.7%となっている。

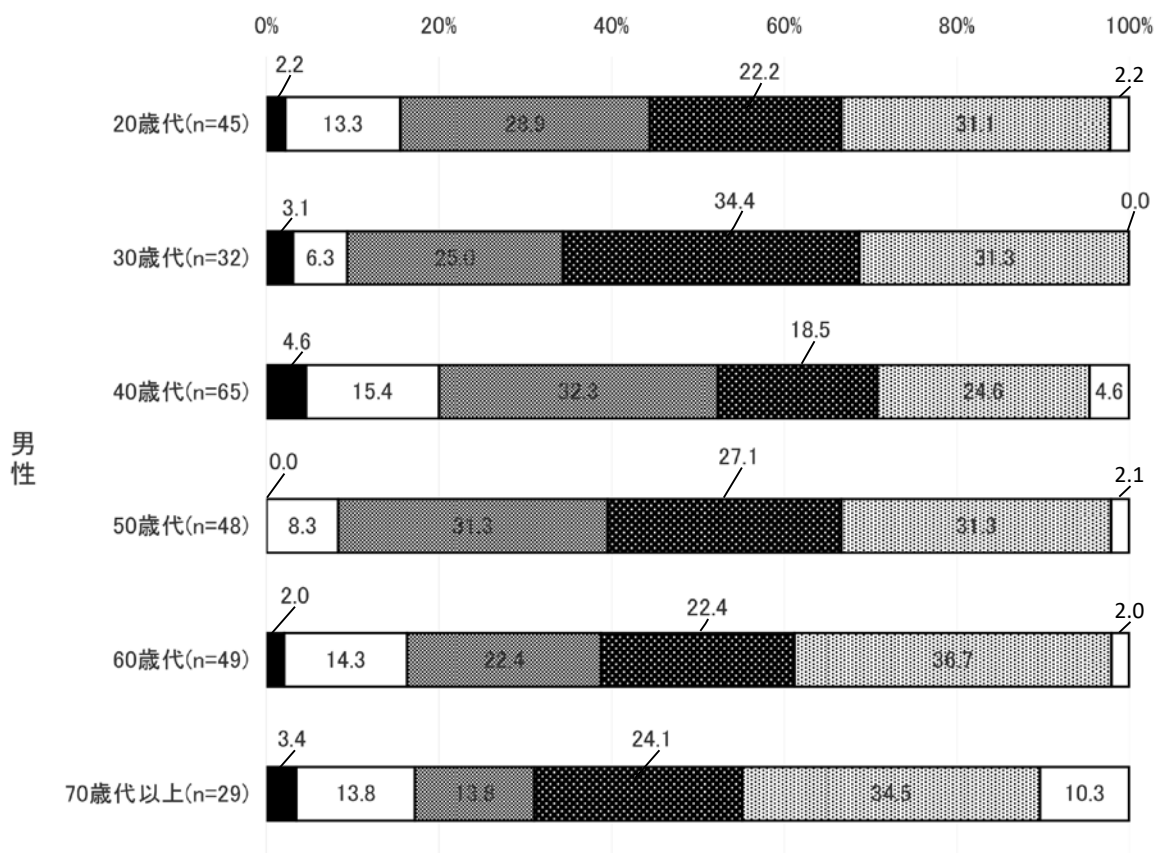
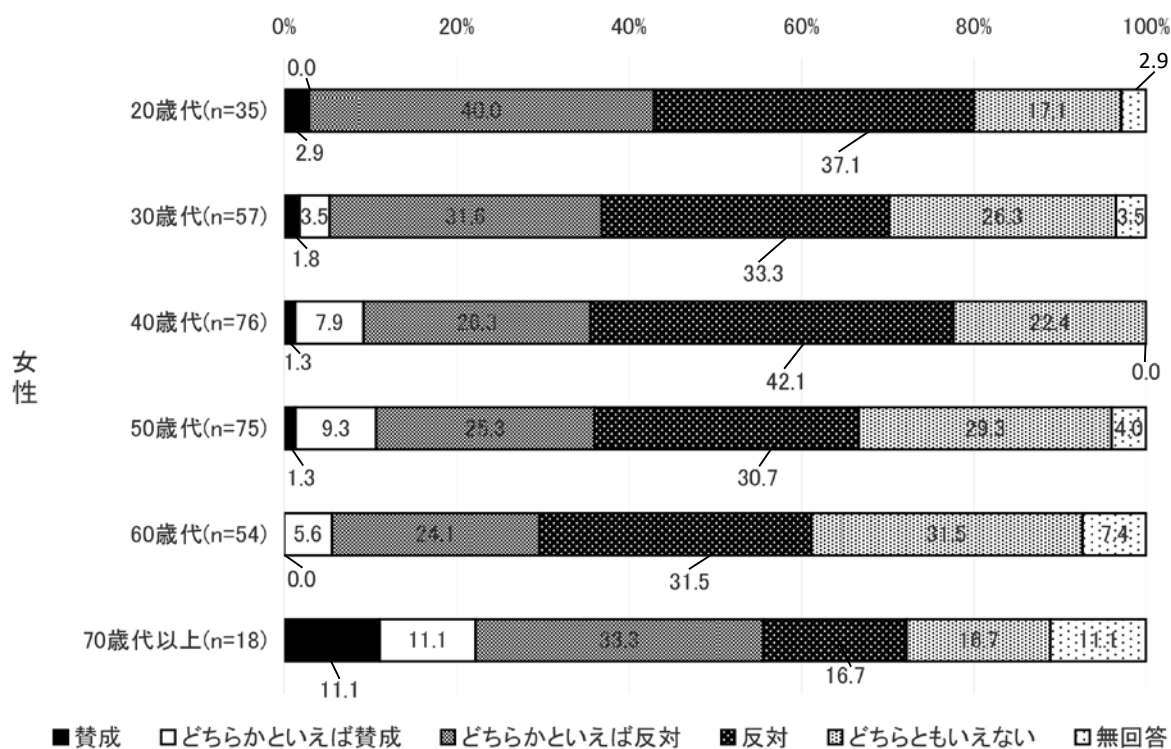
■性別で見ると、『反対派』は女性の62.4%が男性の50.8%より多く、11.6ポイント上回っている。『賛成派』は男性が14.9%が女性の8.5%より多く、6.4ポイント上回っている。

■性別・年代別でみると、『賛成派』は女性では70歳代以上（22.2%）、男性では40歳代（20%）が最も多い。『反対派』は女性では20歳代（77.1%）が最も高く他の年代でも5割以上である。男性では30歳代（59.4%）が最も高く、60歳代並びに70歳代以上は5割を下回っている。

図表3-1 男女の役割分担意識についての考え方(性別)



図表3-2 男女の役割分担意識についての考え方(性別・年齢別)



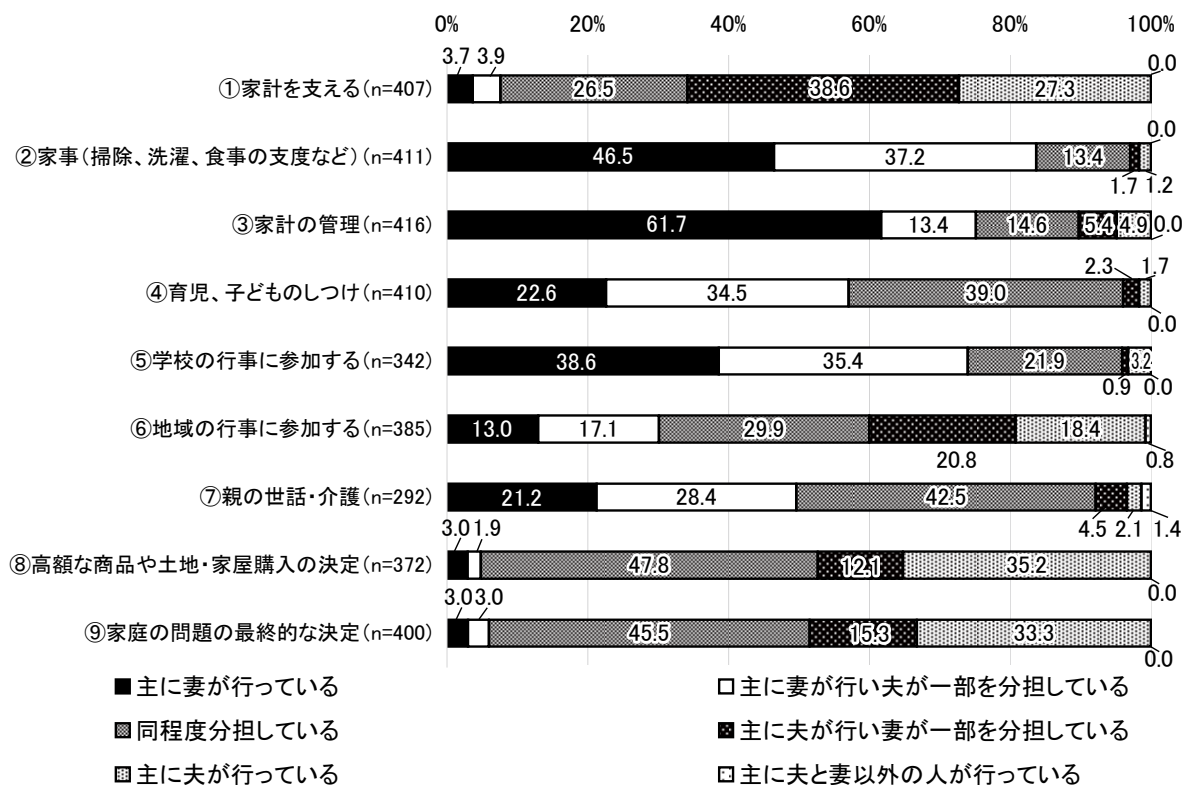
(4) 家庭生活での夫婦の役割分担状況

あなたのご家庭では、次の①～⑨にあげるような家庭内の仕事を、主にどなたがしていますか。
 ＊育児や子どもの教育、親の介護等については、現在該当しなくても過去にご経験があればそれをもとにお答えください。
 (○はそれぞれ1つずつ)

家庭生活での夫婦の役割は、
 主に妻の分担が多いのは「家事（掃除、洗濯、食事の支度など）」主に夫の分担が多いのは「家計を支える」

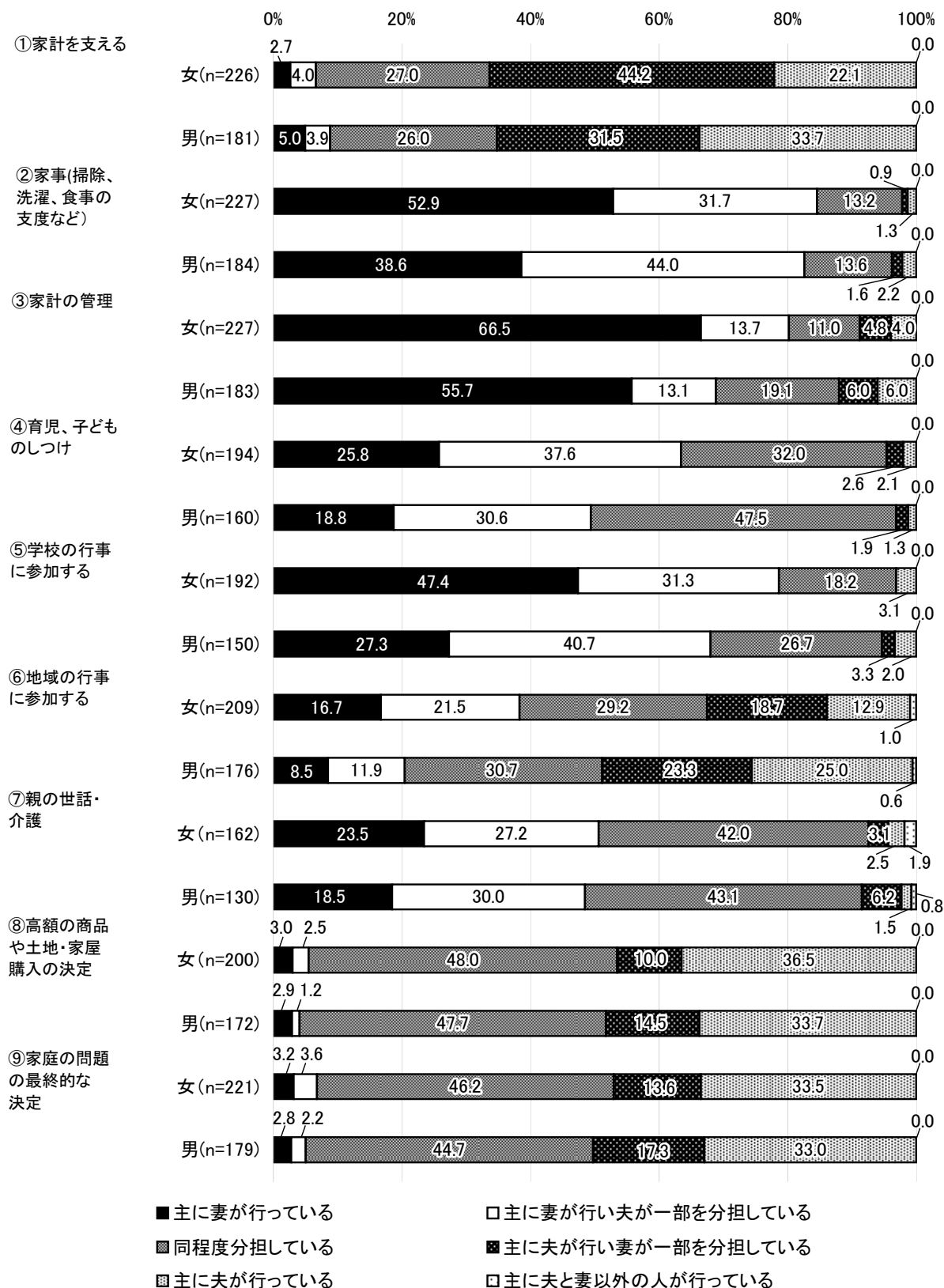
- 『主に妻』（「主に妻が行っている」及び「主に妻が行い、夫が一部を分担している」の合計）が分担していると回答した人の割合は、「家事（掃除、洗濯、食事の支度など）」で83.7%と最も高く、次に「家計の管理」（75.1%）、「学校の行事に参加する」（74.0%）となっている。
- 一方、『主に夫』（「主に夫が行っている」及び「主に夫が行い、妻が一部を分担している」の合計）が分担していると回答した人の割合は、「家計を支える」で最も高く、65.9%となっている。
- 「同程度分担している」と回答した人の割合は、「高額商品や土地・家屋の購入の決定」（47.8%）、「家庭の問題の最終的な決定」（45.5%）、「親の世話・介護」（42.5%）、「育児、子どものしつけ」（39.0%）が比較的高くなっている。

図表4-1 夫婦の役割分担状況



■性別にみると、『主に妻』が分担していると回答した人の割合は、「家計を支える」以外、すべての項目で『主に夫』と回答した人の割合より高くなっている。

図表4-2 夫婦の役割分担状況(性別)



(5) 理想とする家庭生活での役割分担状況

それでは、理想としては、どのように分担するのがよいとお考えですか。(〇はそれぞれ1つずつ)

理想とする夫婦の役割分担は

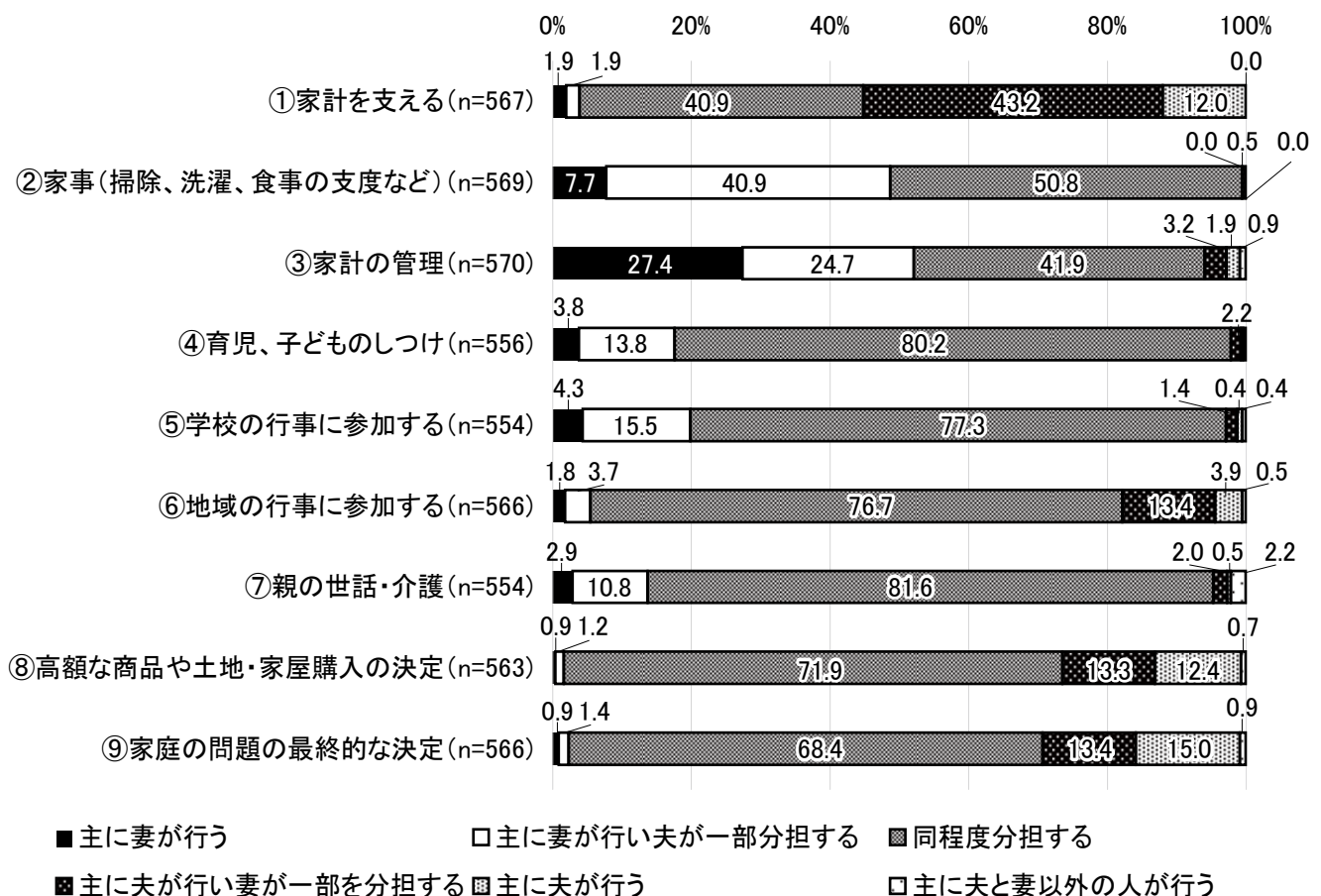
夫婦が同程度分担は「親の世話・介護」、「育児、子どものしつけ」が8割強

「学校の行事に参加する」、「地域の行事に参加する」が8割弱

■理想的な夫婦の役割分担として、「同程度分担する」との回答の割合が特に高いのは、「親の世話・介護」(81.6%)、「育児、子どものしつけ」(80.2%)、「学校の行事に参加する」(77.3%)、「地域の行事に参加する」(76.7%)で8割前後となっている。

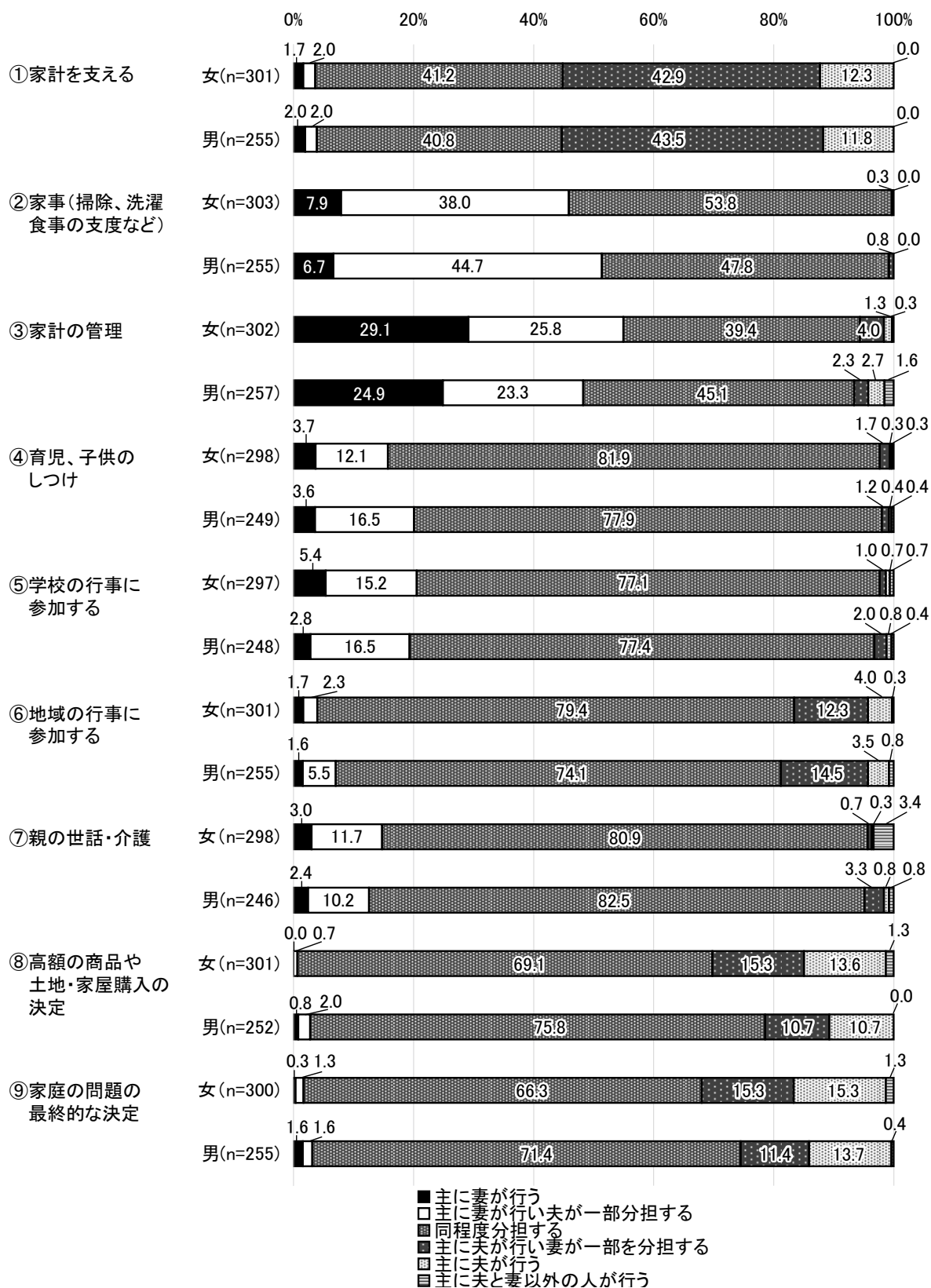
■一方で『主に妻』の分担が理想であるとの回答の割合が高いのは「家計の管理」(52.1%)、「家事(掃除、洗濯、食事の支度など)」(48.6%)となっており、『主に夫』の分担が理想であるとの回答が高いのは、「家計を支える」(55.2%)となっている。

図表5-1 理想とする夫婦の役割分担



■性別にみると、男女とも理想とする夫婦の役割分担については、男性は女性より「高額の商品や土地・家屋購入の決定」、「家庭の問題の最終的な決定」を同程度分担したいと回答している。

図表5-2 理想とする夫婦の役割分担



3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

（6）仕事と生活のバランスの希望

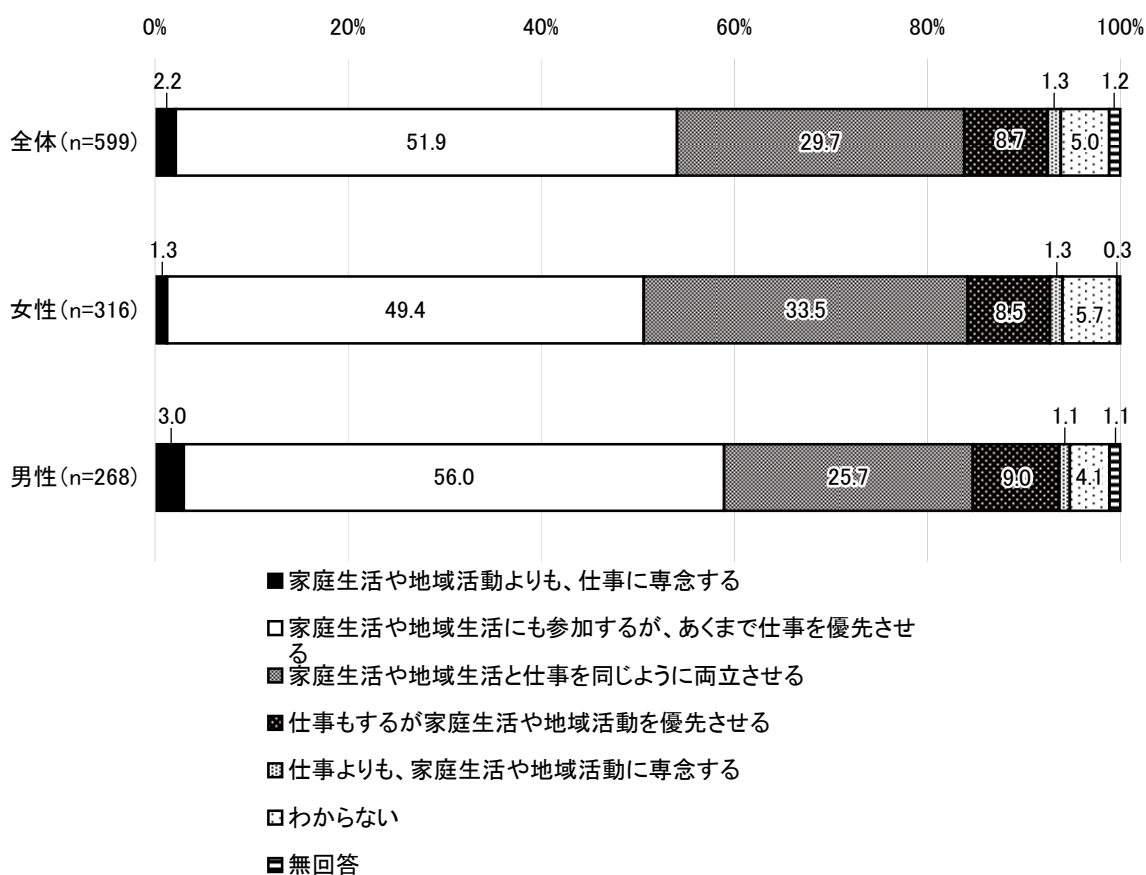
仕事と家庭生活または町内会やボランティアなどの地域活動をどのように位置づけるのが望ましいと思いますか。（○は1つだけ）

仕事と生活のバランスの希望は、
「家庭・地域活動にも参加するが仕事を優先」が5割強
「家庭・地域活動と仕事を両立」が3割弱

■全体では、『家庭生活や地域活動にも参加するが、あくまで仕事を優先させる』を希望する人が51.9%と最も高く、次いで『家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる』が29.7%となっている。

■性別でみると、『家庭生活や地域活動にも参加するが、あくまで仕事を優先させる』を希望する人の割合は女性49.4%より男性の56.0%の方が高く、6.6ポイントの差が見られる。

図表6-1 仕事と生活のバランスの希望



(7) 仕事と生活のバランスの状況

現在の状況では、あなたは次のどれに当てはまりますか。

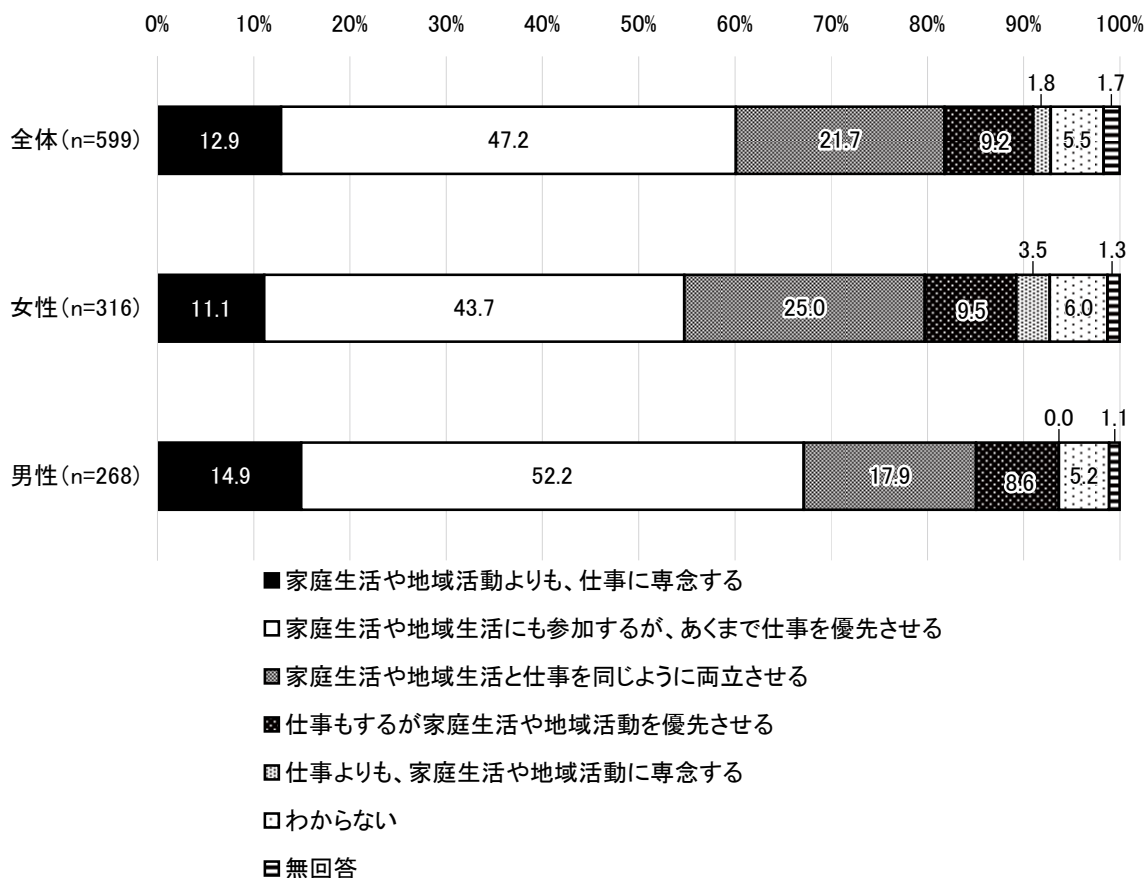
(○は1つだけ)

仕事と生活のバランスの現状は、
「家庭・地域活動にも参加するが仕事を優先」が5割弱
「家庭・地域活動と仕事を両立」が2割強

■全体では、『家庭生活や地域活動にも参加するが、あくまで仕事を優先させる』人の割合が47.2%となっており、次いで『家庭生活や地域活動と仕事を同じように両立させる』が21.7%となっている。

■性別でみると、『家庭生活や地域活動にも参加するが、あくまで仕事を優先させる』が女性は43.7%であるのに対し、男性では52.2%であり、8.5ポイントの差が見られる。

図表7-1 仕事と生活のバランスの状況



(8) 仕事と生活の調和のために必要なこと

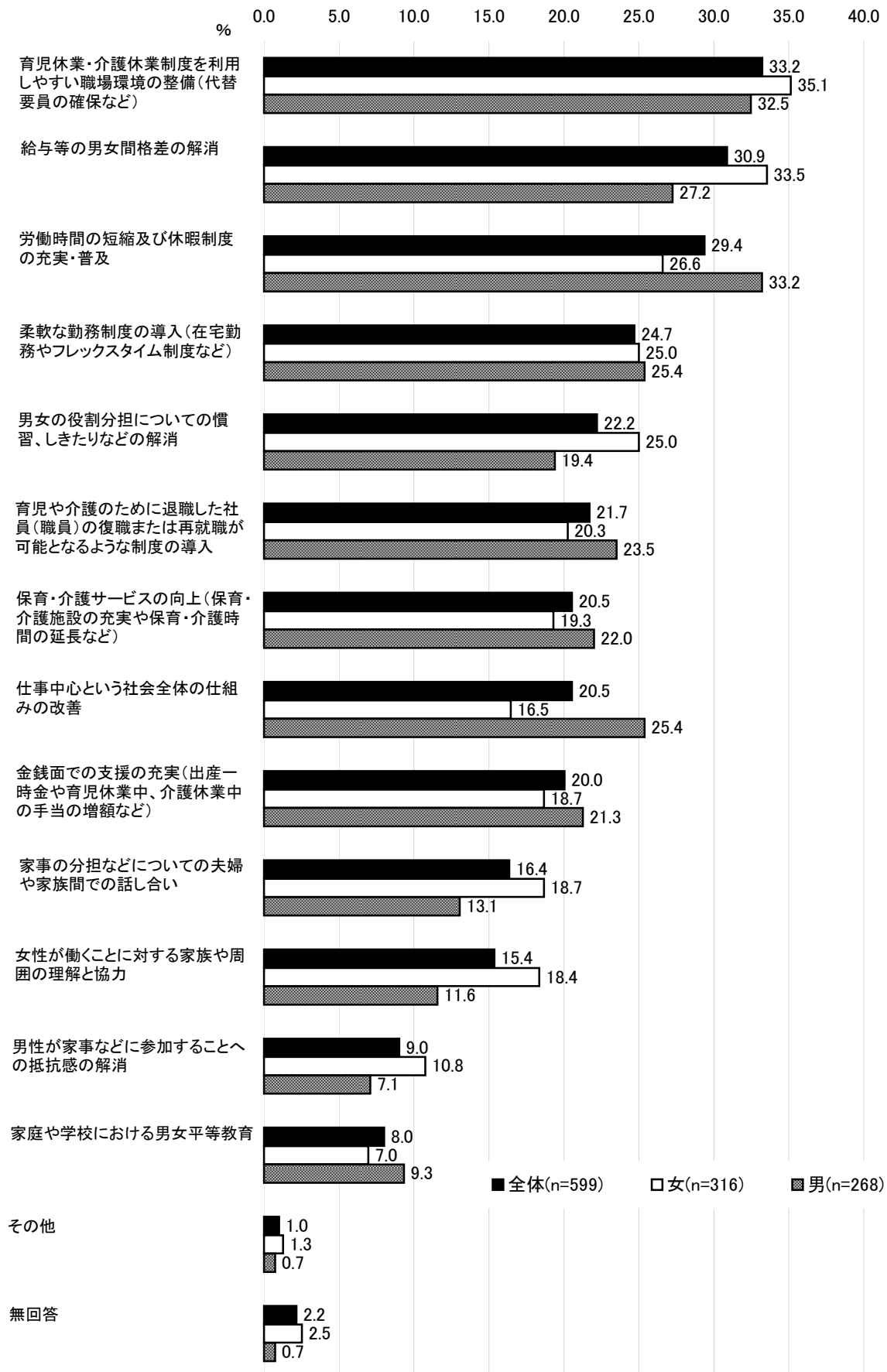
一般に、男女が共に仕事と家庭生活や地域活動の両立を可能とするためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

仕事と生活の調和のためには、

「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備」が必要との考えが3割強

- 全体では、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備（代替要員の確保など）」が必要だと考える人の割合が33.2%と最も高く、次いで「給与等の男女間格差の解消」(30.9%)、「労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及」(29.4%)となっている。
- 性別でみると、女性では「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備（代替要員の確保など）」(35.1%)、男性では「労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及」(33.2%)が最も多い。次いで、女性では「給与等の男女間格差の解消」(33.5%)、「労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及」(26.6%)、男性では「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備（代替要員の確保など）」(32.5%)、「給与等の男女間格差の解消」(27.2%)となっている。

図表8-1 仕事と生活の調和のために必要なこと



4 就業について

(9) 職場での男女差

あなたの職場では、次の①～⑦にあげるような分野で、性別によって差があると思いますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

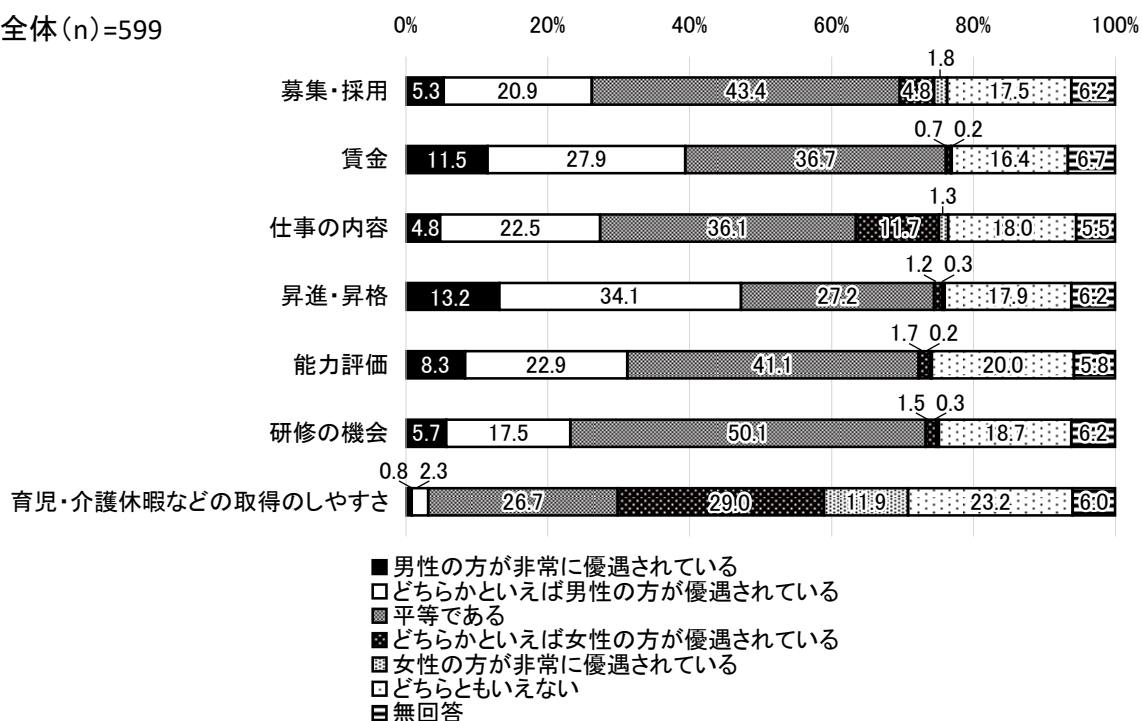
職場での男女差については、

「昇進・昇格」で男性優遇感が強く、「休暇の取得のしやすさ」で女性優遇感が強い

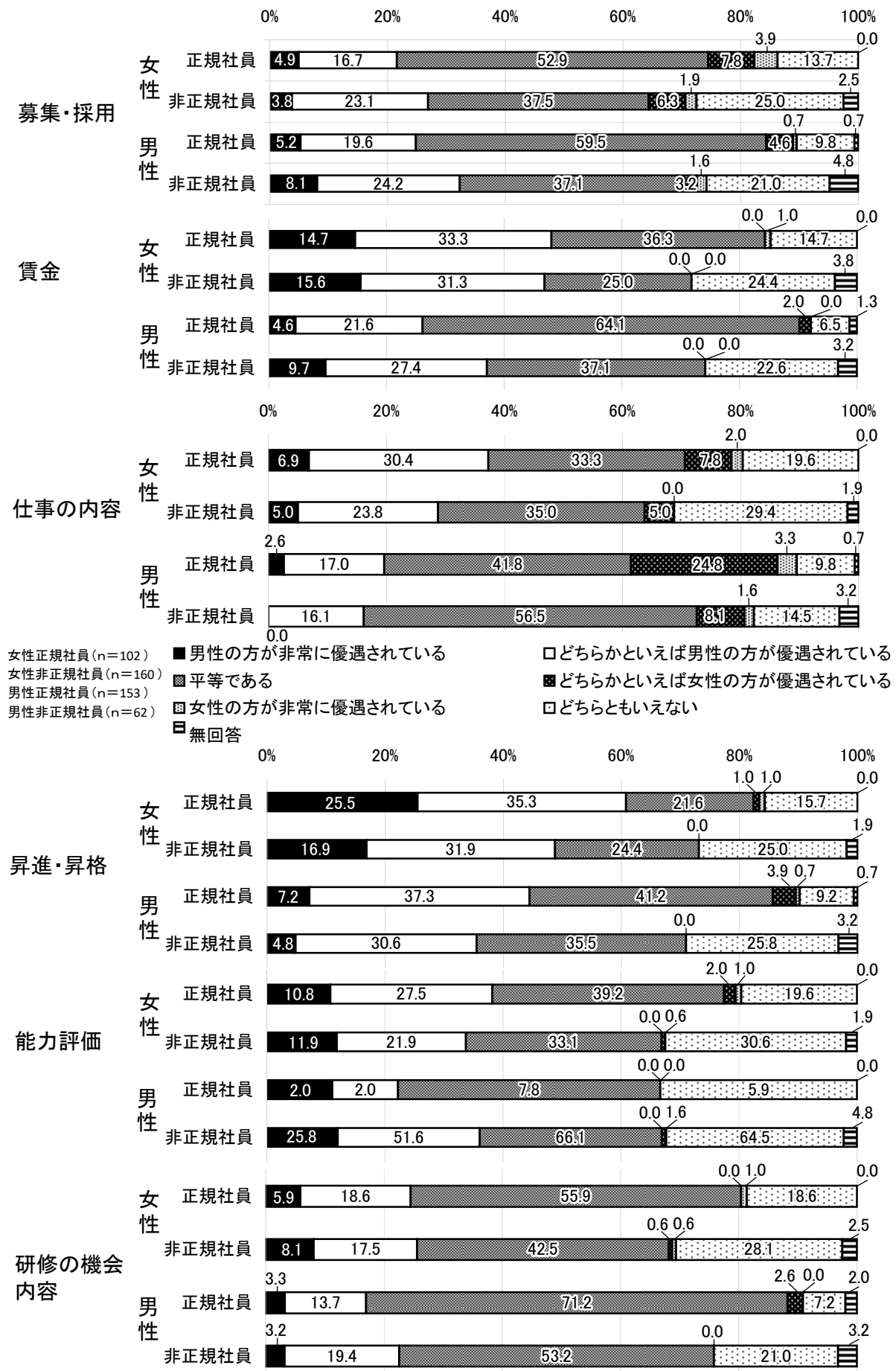
- 男性優遇感があると回答した人の割合は「昇進・昇格」で47.3%と最も多く、次いで「賃金」(39.4%)となっている。
- 一方、女性優遇感があると回答した人の割合が高いのは「育児・介護休暇などの休暇の取得しやすさ」で40.9%となっている。
- 「平等である」と回答した人の割合は「研修の機会や内容」で50.1%と最も多く5割を超え、次いで「募集・採用」(43.4%)となっている。
- 性別・雇用状況では、「昇給・昇格」の女性正規社員で男性優遇感があると60.8%が回答となっている。一方で同じ女性正規社員が「育児・介護休暇などの休暇の取得しやすさ」で56.9%が女性優遇感があると回答となっている。

図表9-1 職場での男女差

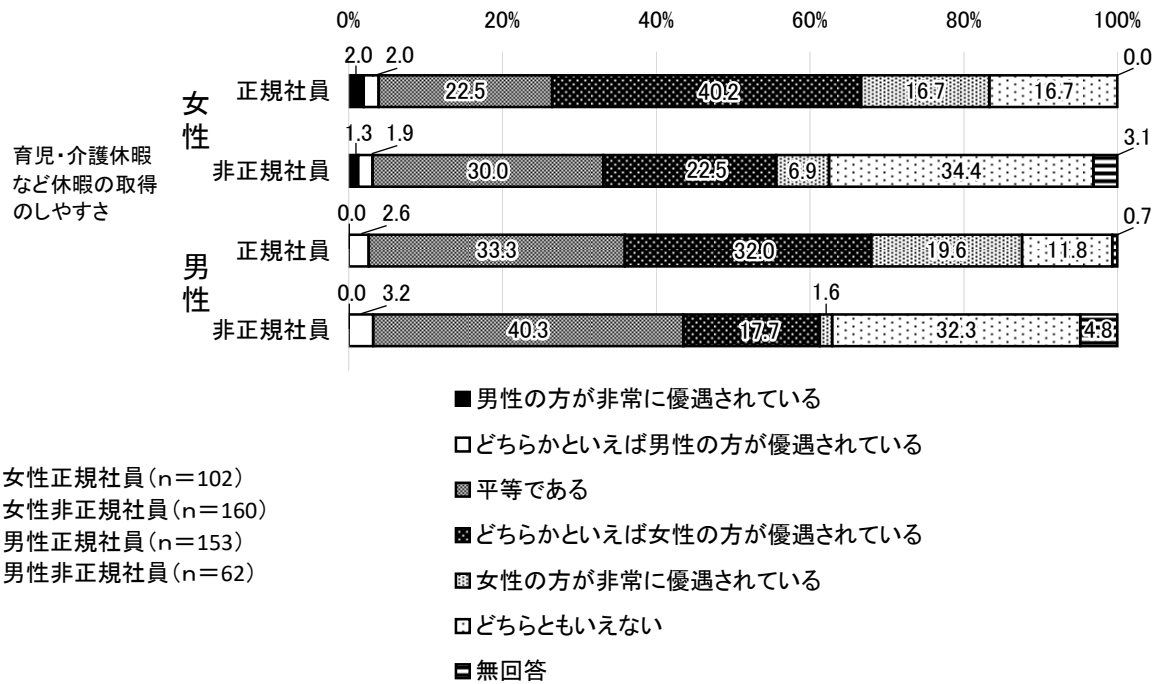
全体(n)=599



図表9-2 就業について(性別・雇用状況)①



図表9-3 就業について(性別・雇用状況)②



(10) 女性の就業についての意識

女性の就業について、あなたはどのような考えをお持ちですか。

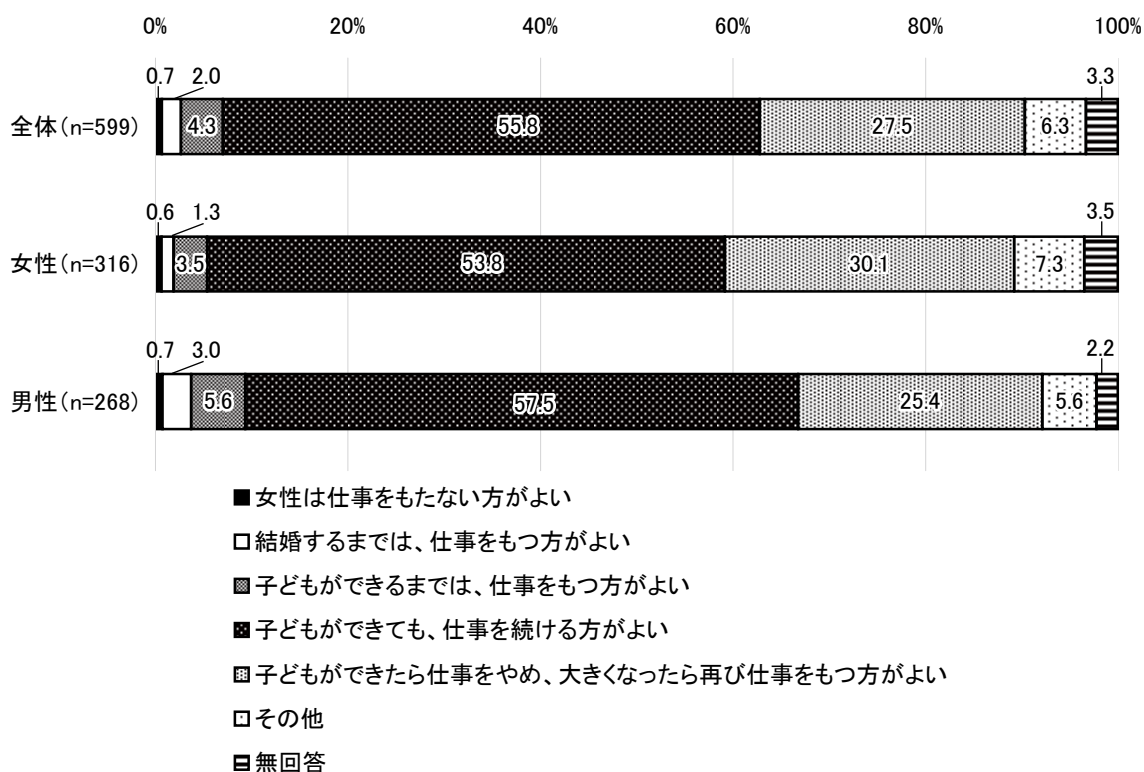
(○は1つだけ)

女性の働き方については、
「就業継続型」が5割半ば、「中断再就職型」が3割弱

■全体では、『就業継続型（子どもができて、仕事を続ける方がよい）』が55.8%で、『中断再就職型（子どもができたらず仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい）』が27.5%と28.3ポイントの差がある。

■性別にみると、女性では『就業継続型』が53.8%で『中断再就職型』の30.1%を23.7ポイント上回っている。男性も同様に『就業継続型』が57.5%で『中断再就職型』25.4%を32.1ポイント上回っている。

図表10-1 女性の就業についての意識



(11) 女性の就業継続について

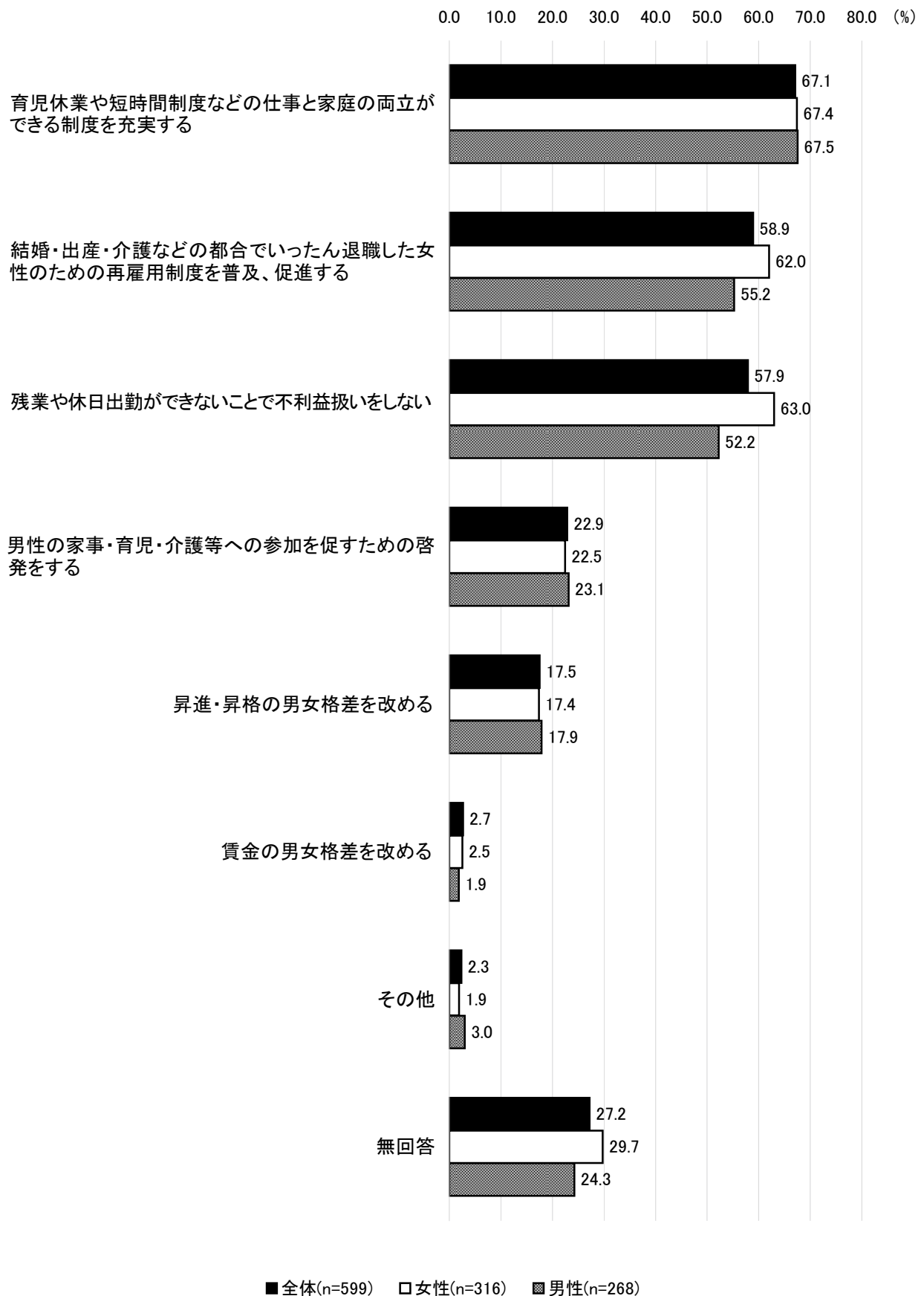
女性が結婚・出産後も職業を持ち、働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。

(○は3つまで)

女性が結婚・出産後も職業を持ち、働き続けるためには、
「仕事と家庭の両立ができる制度を充実する」や「退職した女性のための再雇用制度の普及・促進」
が必要との考えが7割弱から6割弱

- 全体では、「育児休暇や短時間制度などの仕事と家庭の両立ができる制度を充実する」が67.1%と最も多く、次いで、「結婚・出産・介護などの都合でいったん退職した女性のための再雇用制度を普及・促進する」(58.9%)、「残業や休日出勤できないことで不利益扱いをしない」(57.9%)となっている。
- 性別にみると、「残業や休日出勤ができないことで不利益扱いをしない」は女性で63.0%、男性で52.2%と10.8ポイントの差がみられる。

図表11-1 女性の就業継続のために必要な措置



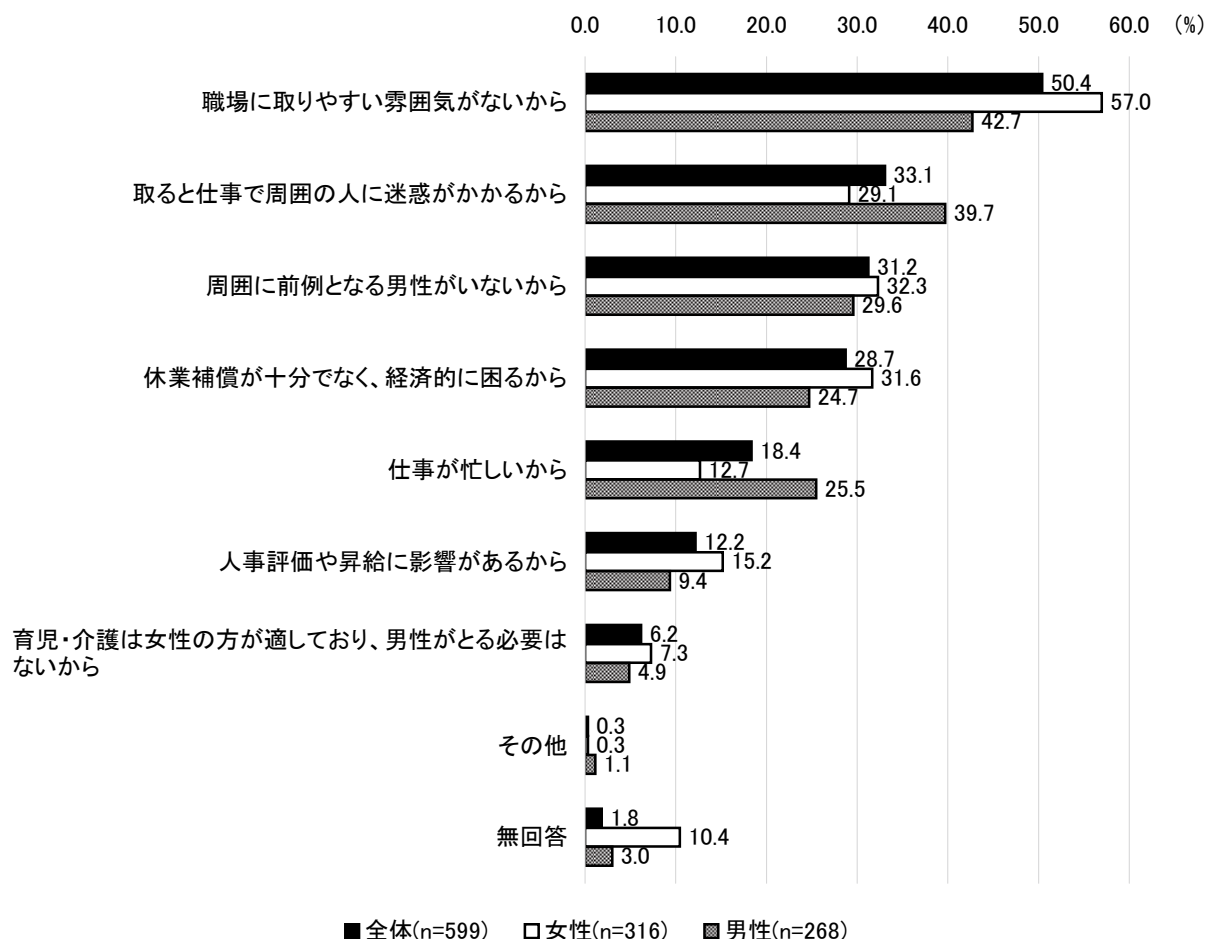
(12) 男性の育児休業取得について

宮崎県の平成 26 年度の労働条件等実態調査によると育児休業取得率は女性が 95.6%であるのに対し、男性は 3.4%と低い水準になっています。男性の育児休業取得率が低い理由は何だと思えますか。(○は2つまで)

男性の育児休業取得率が低い理由は
「職場に取りやすい雰囲気がないから」が約 5 割

- 全体では、「職場に取りやすい雰囲気がないから」と回答した人が 50.4%と最も多く、次いで「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」(33.1%)、「周囲に前例となる男性がいないから」(31.2%)となっている。
- 性別にみると、女性より男性の回答が多かった項目は「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」、「仕事が忙しいから」となっている。

図表12-1 男性の育児休業取得率が低い理由



5 地域活動について

(13) 地域活動への参加

あなたは次のような活動をしていますか。

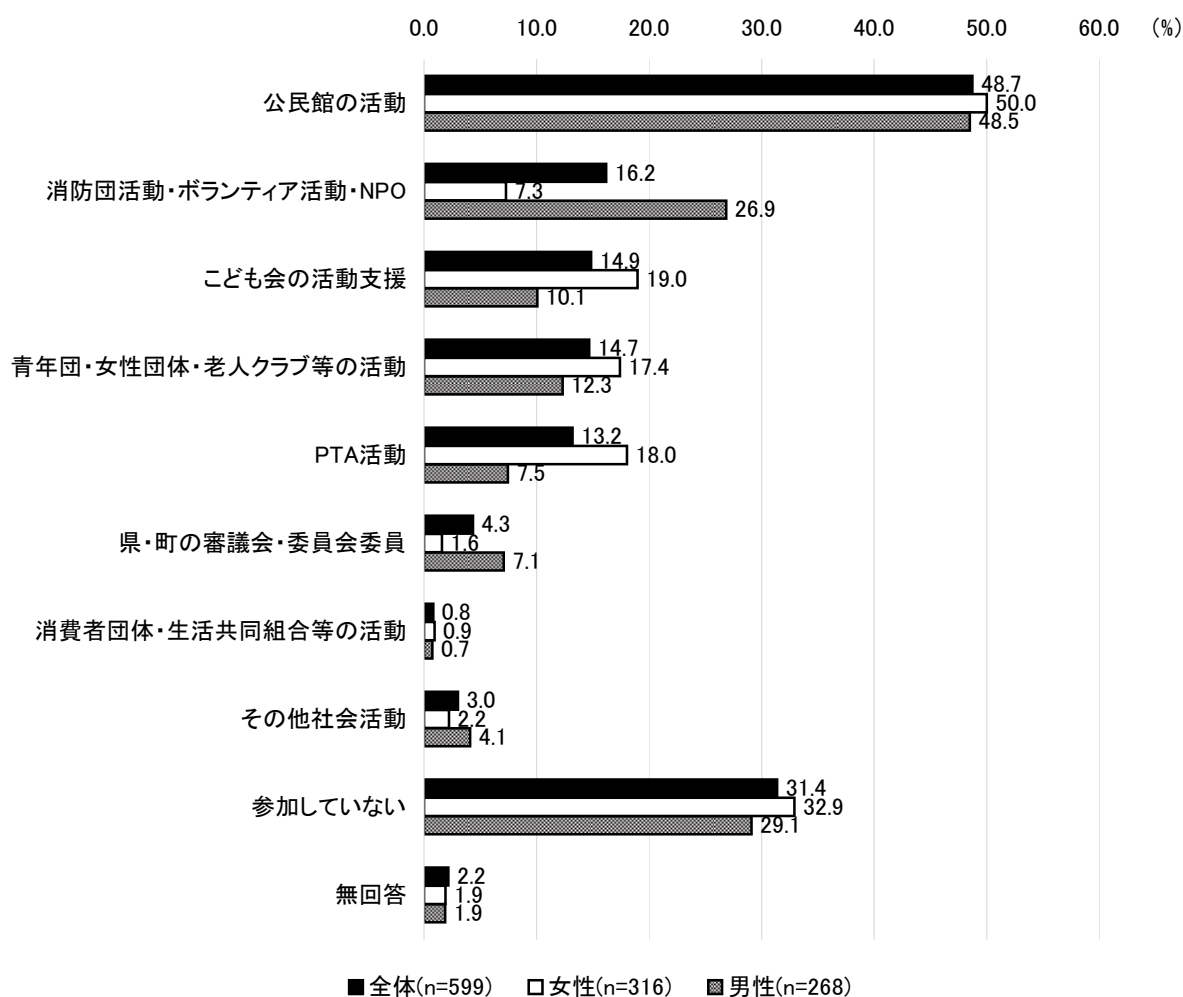
(○はいくつでも)

地域の活動については、参加していない人が3割強
参加している活動で最も多いのは「公民館の活動」5割弱

■全体では、「公民館の活動」と回答した人が48.7%と最も多くなっている。次に「参加していない」(31.4%)、「消防団活動・ボランティア活動・NPO」(16.2%)となっている。

■性別にみると、男性より女性の方が参加している人の割合が高い活動は、「公民館の活動」「PTA活動」「子ども会の活動支援」「青年団・女性団体・老人クラブ等の活動」となっている。女性より男性の方が参加している人の割合が高い活動は、「消防団活動・ボランティア活動・NPO」「県・町の審議会・委員会委員」となっている。

図表13-1 地域活動への参加状況



(14) 地域社会での慣習等

あなたの地域では次のようなことがありますか。

(○はいくつでも)

地域社会での慣習として、

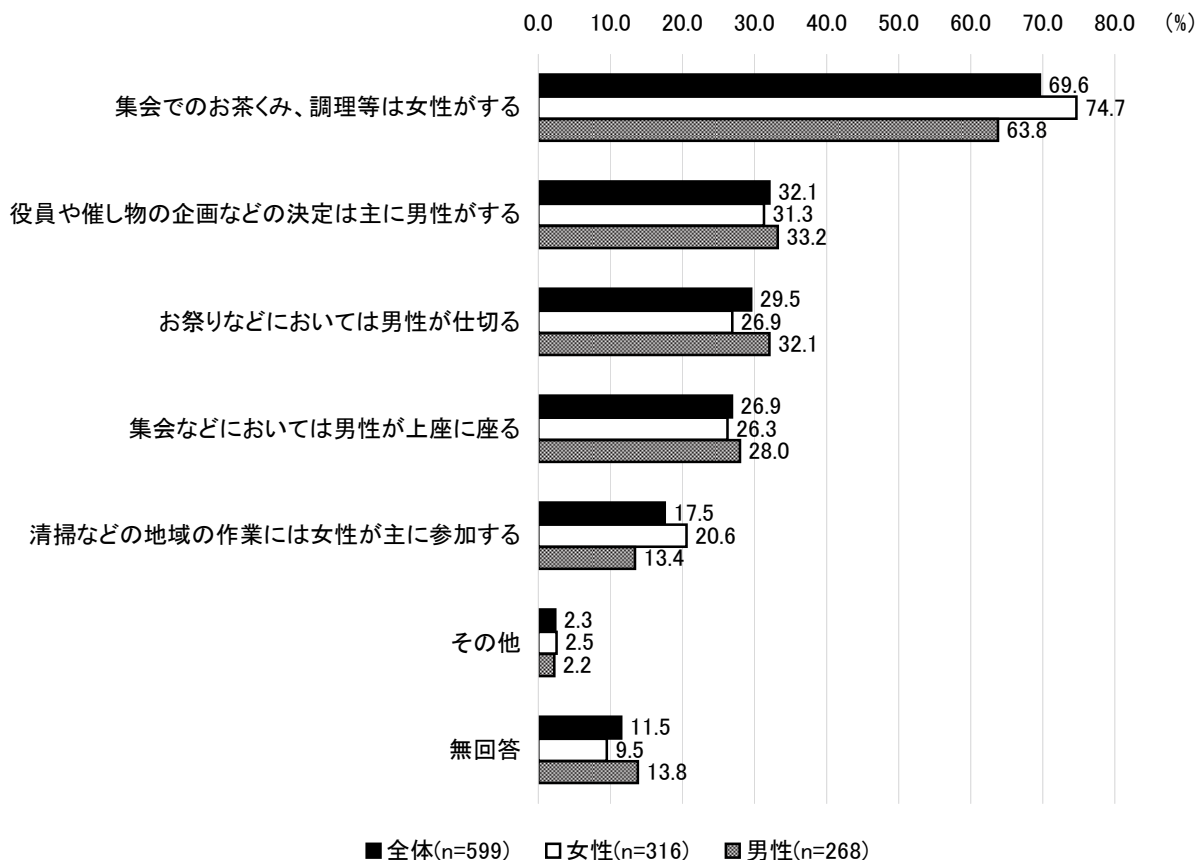
「集会でのお茶くみ、調理等は女性がする」が7割弱

■全体では、「集会でのお茶くみ、調理等は女性がする」と回答した人が69.6%で最も多く、次いで「役員や催し物の企画などの決定は主に男性がする」(32.1%)「お祭りなどにおいては男性が仕切る」(29.5%)となっている。

■性別にみると、「集会でのお茶くみ、調理等は女性がする」では女性(74.7%)が男性(63.8%)より10.9ポイント、「清掃などの地域の作業には女性が主に参加する」では女性(20.6%)が男子(13.4%)より7.2ポイント高くなっている。

一方、「お祭りなどにおいては男性が仕切る」では男性(32.1%)が女性(26.9%)より5.2ポイント高くなっている。

図表14-1 地域社会での慣習等



(15) 政策の企画・方針決定に関する意識

近年、女性の社会進出は進みつつあるものの、公民館館長や審議会委員や議員等には、まだ女性が少ないのが現状です。このような政治や行政における政策の企画や方針決定の過程に女性の参加が少ない理由は何だと思いませんか。

(○は3つまで)

政策の企画・方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は

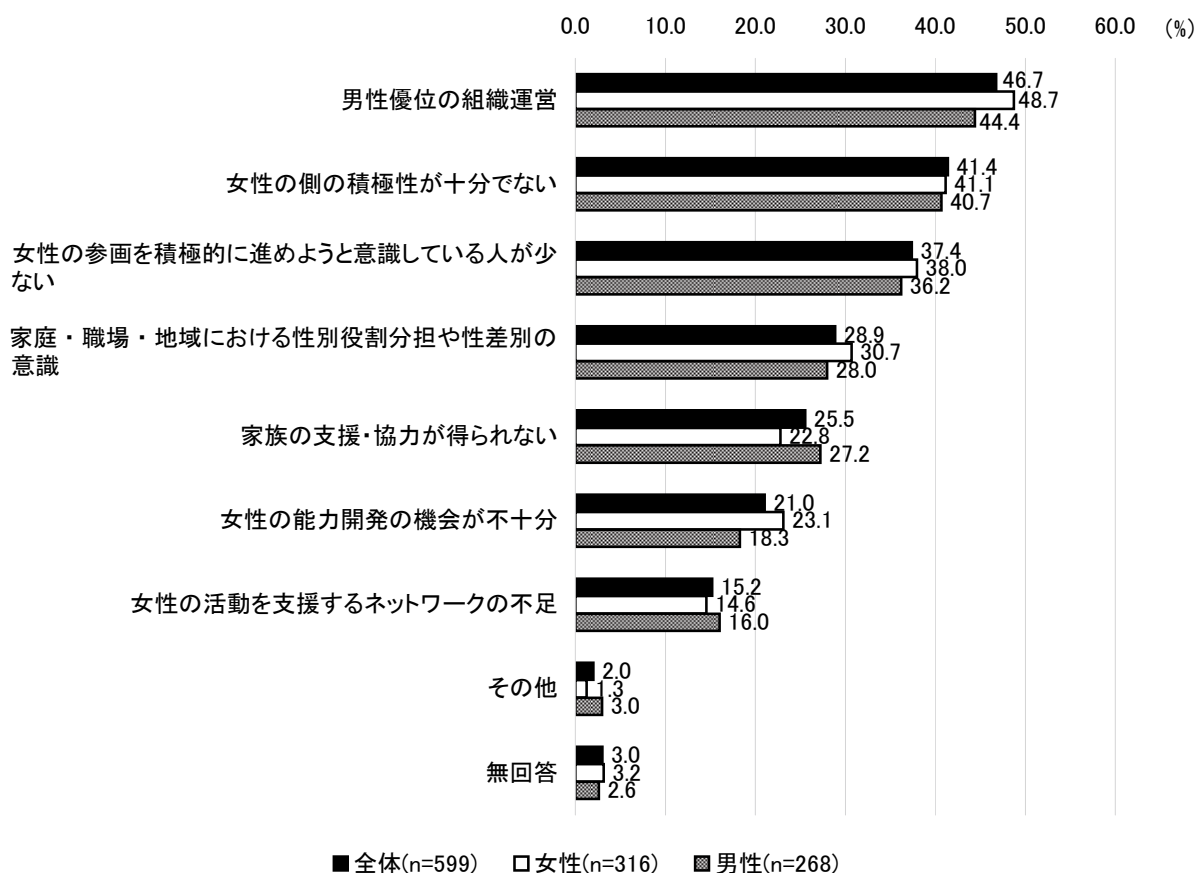
「男性優位の組織運営」5 割弱、「女性の側の積極性が十分でない」4 割強

「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」が4 割弱

■全体では、「男性優位の組織運営」と回答した人が46.7%と最も多く、次いで「女性の側の積極性が十分でない」(41.4%)「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」(37.4%)となっている。

■性別にみると、「女性の能力開発の機会が不十分」で、女性が男性を4.4 ポイント上回っており、男女差が最も大きくなっている。

図表15-1 企画・方針決定に関する意識



(16) 女性の社会参画

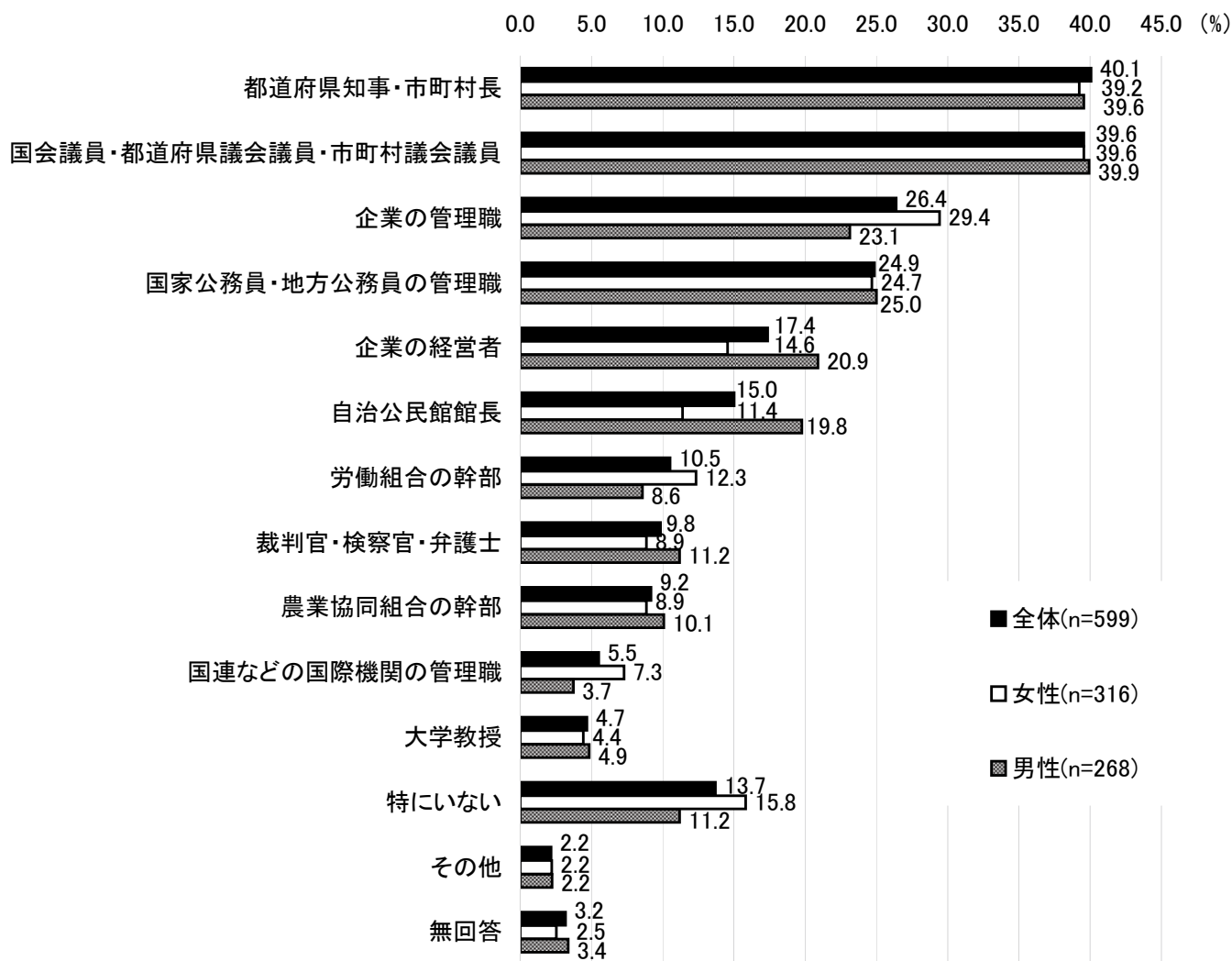
政策・方針の決定にかかわる役職において、あなたはどのような分野に女性がもっと増える方がよいと思いますか。
(○は3つまで)

政策・方針決定にかかわる役職において、女性がもっと増えるほうがよいと思うのは「都道府県知事・市町村長」が4割

■全体では、「都道府県知事・市町村長」と回答した人が40.1%と最も多く、次いで、「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」(39.6%)、「企業の管理職」(26.4%)となっている。

■性別にみると、「企業の管理職」では女性(29.4%)が男性(23.1%)を6.3ポイント上回っている。一方、「企業の経営者」では男性(20.9%)が女性(14.6%)を6.3ポイント、「自治公民館館長」では男性(19.8%)が女性(11.4%)を8.4ポイント上回っている。

図表16-1 女性の社会参画のために必要な措置



(17) 女性の社会進出のために必要な措置

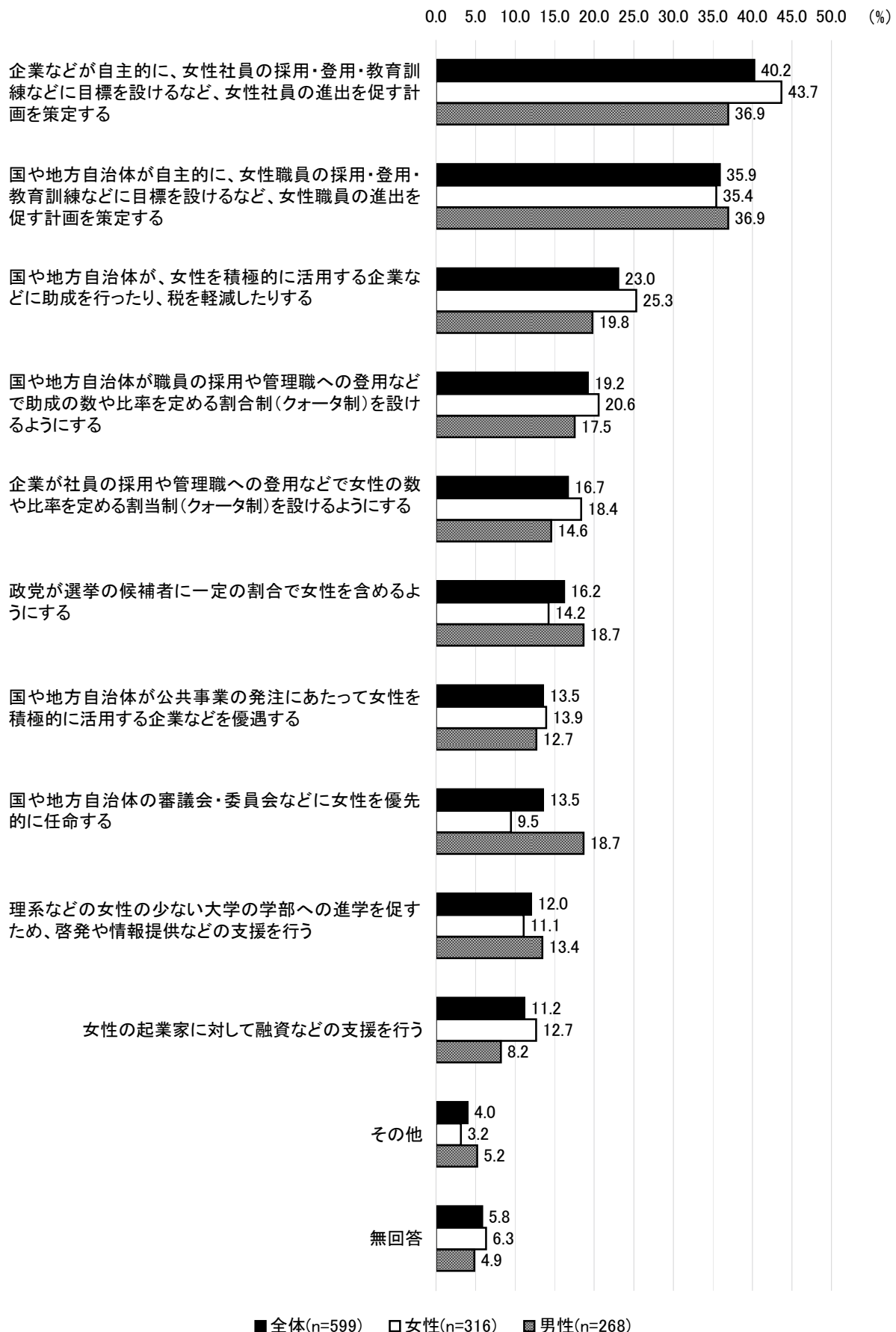
女性があまり進出していない分野への女性の進出を進めていくために、どのような措置をとるのがよいと思いますか。
(○は3つまで)

女性の社会進出のための必要な措置は

「企業、国、自治体などが女性進出のための目標設定、計画策定」が4割

- 全体では、「企業などが企業などが自主的に、女性社員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けるなど、女性社員の進出を促す計画を策定する」と回答した人が40.2%と最も多く、次いで「国や地方自治体が自主的に、女性職員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けるなど、女性職員の進出を促す計画を策定する」(35.9%)となっている。
- 性別にみると、「企業などが自主的に、女性社員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けるなど、女性社員の進出を促す計画を策定する」では女性(43.7%)が男性(36.9%)を6.8ポイント上回っている。一方で「国や地方自治体の審議会・委員会などに女性を優先的に任命する」では男性(18.7%)が女性(9.5%)を9.2ポイント、「政党が選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする」では男性(18.7%)が女性(14.2%)を4.5ポイント上回っている。

図表17-1 女性の社会進出のため必要な措置



7 人権への配慮について

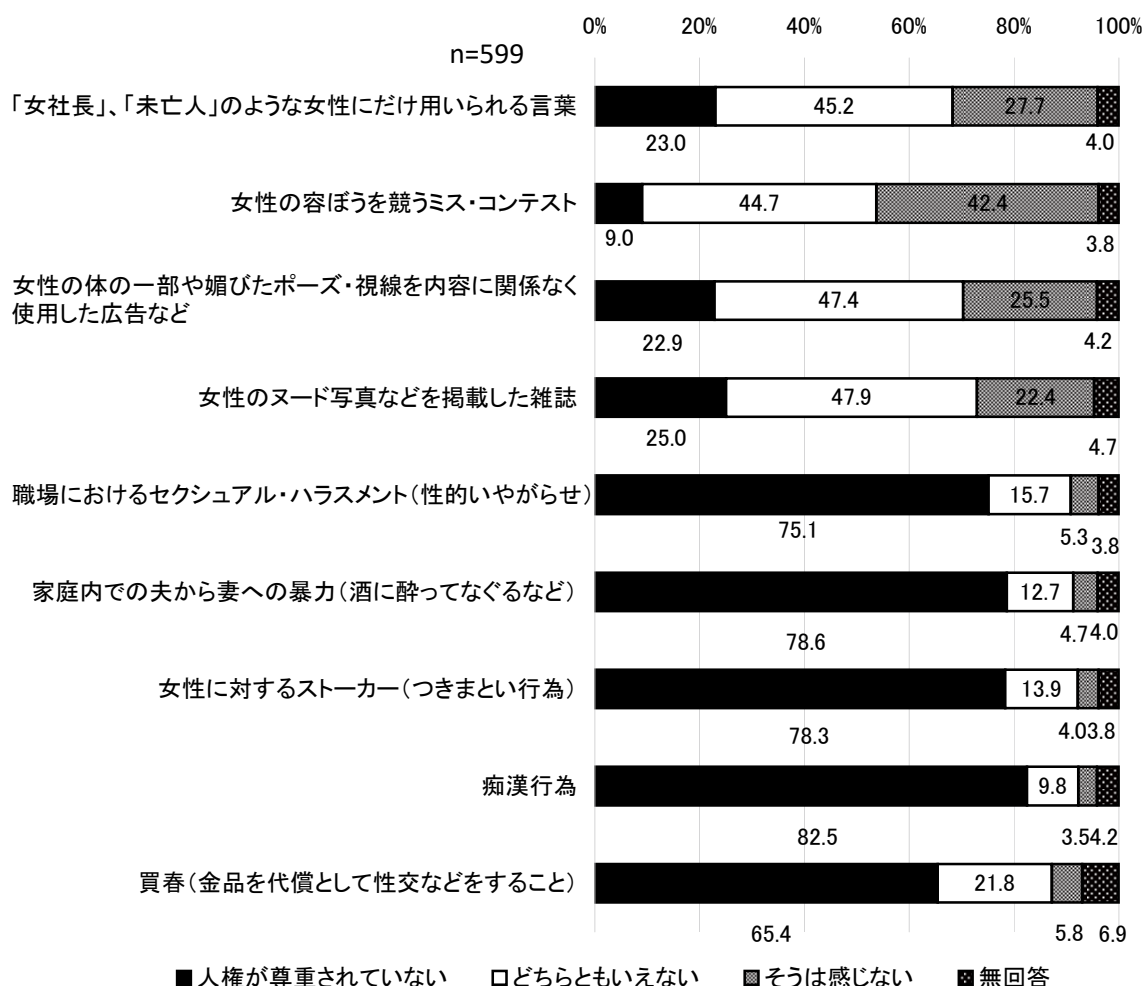
(18) 女性の人権についての意識

あなたは、次に①～⑨にあげる事柄について女性の人権が尊重されていないと感じますか。

主に身体におよぶ行為について、
「買春」以外は、「人権が尊重されていないと感じている」人は7割以上

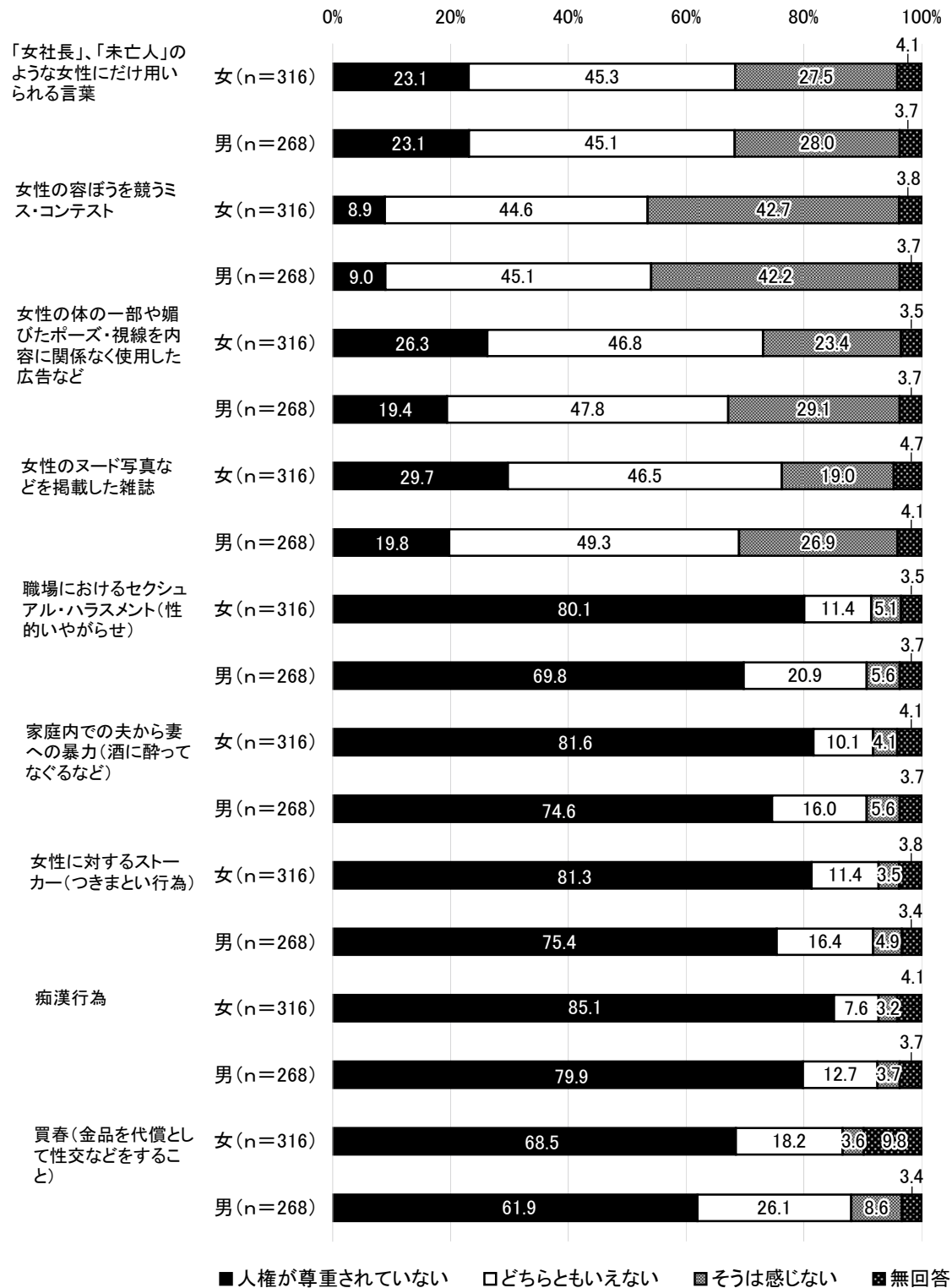
■主に身体におよぶ行為において、「職場におけるセクシュアルハラスメント」、「家庭内での夫から妻への暴力」、「女性に対するストーカー」、「痴漢行為」は、「人権が尊重されていないと感じる」と回答した人が7割を超えているが、「買春(金品を代償として性交などをする事)」については65.4%となっている。

図表18-1 女性の人権についての意識



■性別にみると、「女性のヌード写真などを掲載した雑誌」では、「人権が尊重されていないと感じる」と回答した女性（29.7％）が男性（19.8％）を9.9ポイント上回っている。

図表18-2 女性の人権についての意識(性別)



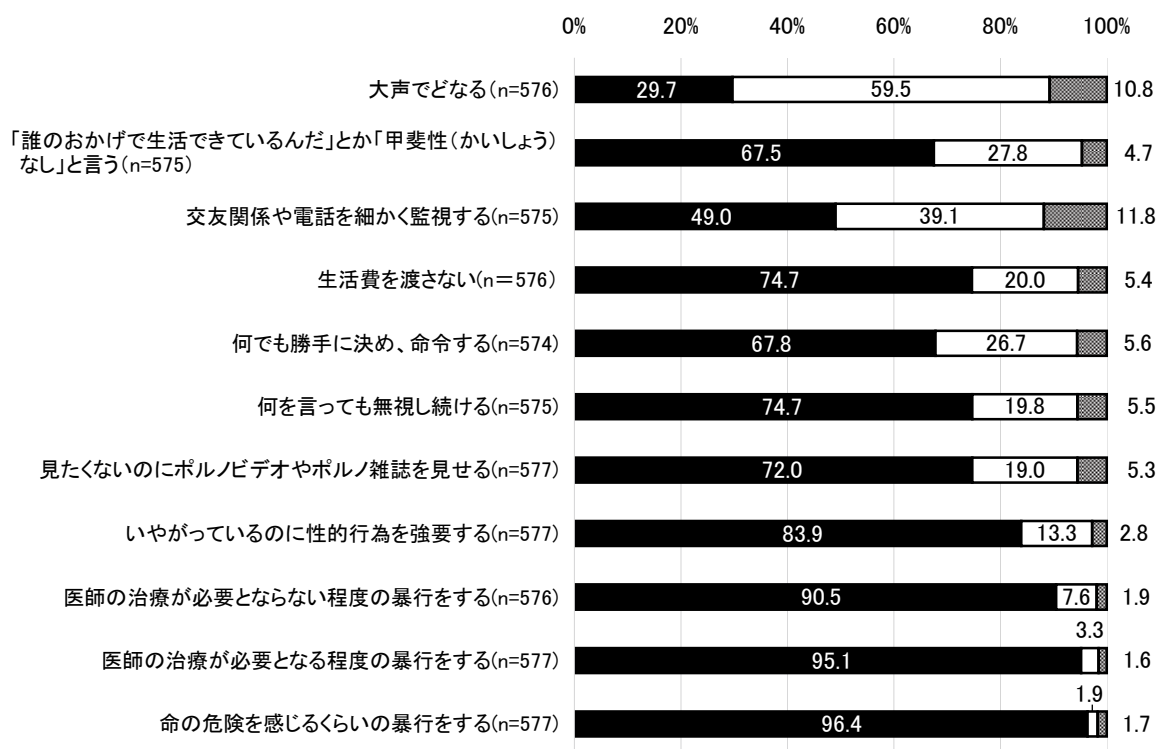
(19) 配偶者等からの暴力に対する意識

あなたは、あなたの夫や妻又は恋人が、次の①～⑪のようなことをした場合それが暴力だと思いますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

暴力など身体におよぶ行為は、「どんな場合も暴力にあたる」との考えが8割以上

- 暴力や性的行為の強要など身体におよぶ行為については、「どんな場合も暴力にあたると思う」と回答した人の割合は8割～9割以上となっている。
- 身体に直接およばない行為については、身体におよぶ行為と比較して「どんな場合も暴力にあたると思う」と回答した人の割合は低いが、「生活費を渡さない」「何を言っても無視し続ける」が74.7%と高くなっている。
- 「大声でどなる」については、「どんな場合も暴力にあたると思う」と回答した人の割合が最も低く29.7%であり、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」との回答が59.5%となっている。

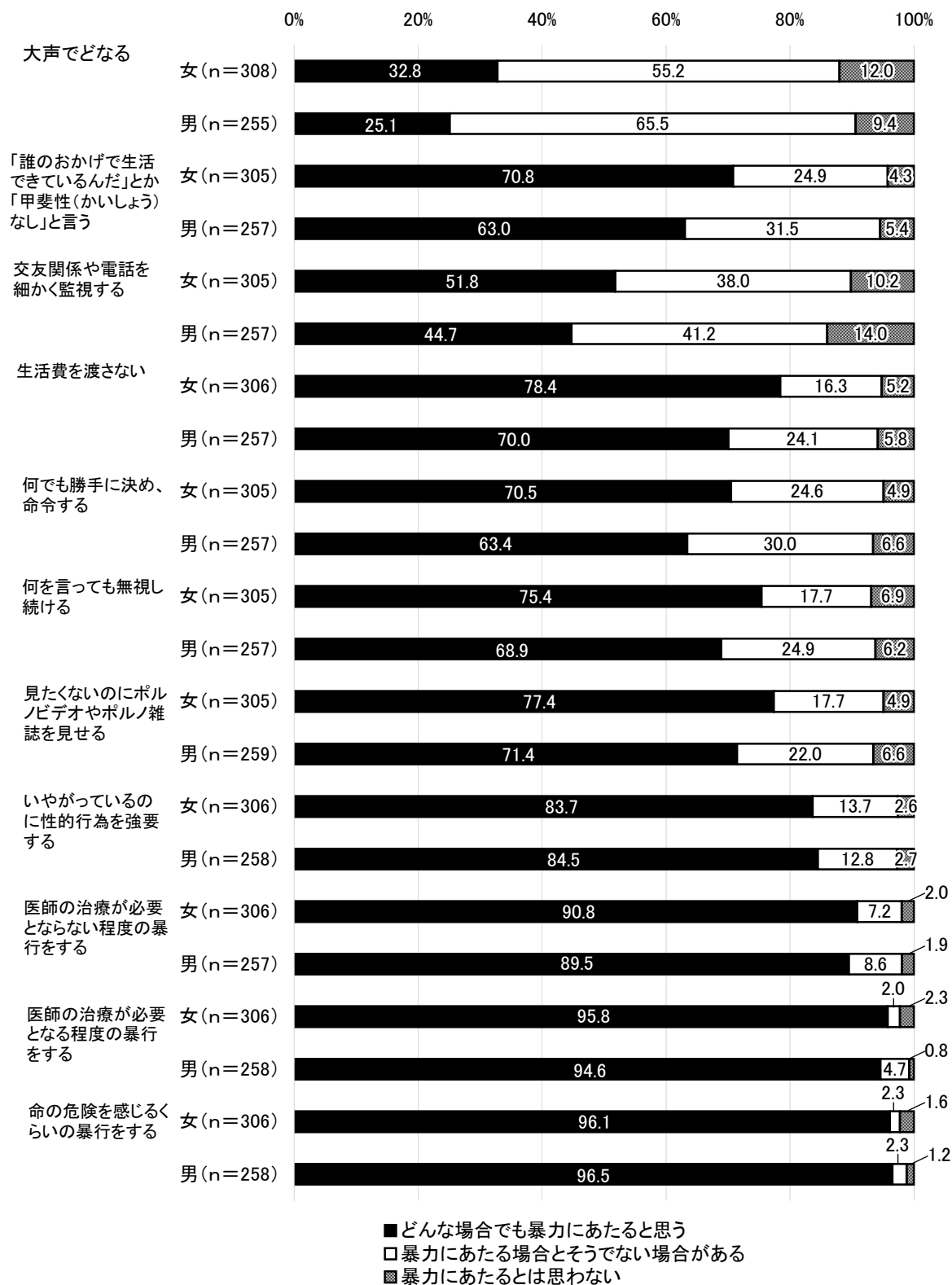
図表19-1 配偶者等からの暴力に対する意識



■どんな場合でも暴力にあたると思う □暴力にあたる場合とそうでない場合がある ▨暴力にあたるとは思わない

■性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」と回答した人が、「いやがっているのに性的行為を強要する」が男性が女性のポイントを上回っている以外は、女性が男性のポイントを上回っている。

図表19-2 配偶者等からの暴力に対する意識(性別)



(20) 配偶者等からの暴力を受けた経験

あなたは、あなたの夫や妻または恋人から、次のようなことをされたことがありますか。

(○はいくつでも)

配偶者から何らかの暴力を受けた経験のある人が、
女性に3割強、男性に2割弱

■全体では「暴力を受けた経験は全くない」(63.1%)と「無回答」(10.5%)を除いた26.4%の人は何らかの暴力を受けたと回答している。暴力を受けたことがあるとの回答の中で最も多かったのは「大声でどなられた」(18.4%)、次いで『「誰のおかげで生活できているんだ」とか「甲斐性(かいしょう)なし」といわれた』(4.7%)、「交友関係や電話を細かく監視された」(4.2%)、「生活費を渡してもらえない」(4.2%)となっている。

■性別にみると、女性では33.3%、男性では19.1%が暴力を受けたことがあると回答しており、男女間で差が見られる。また、女性では「大声でどなられる」(22.2%)、「生活費を渡してもらえない」(7.3%)、『「誰のおかげで生活できているんだ」とか「甲斐性(かいしょう)なし」といわれた』(6.3%)、男性では、「大声でどなられた」(14.2%)、「何を言っても無視し続けられた」(3.4%)が多くなっている。

図表20-1 配偶者からの暴力を受けた経験の有無



(21) 配偶者からの暴力を受けた時の相談先

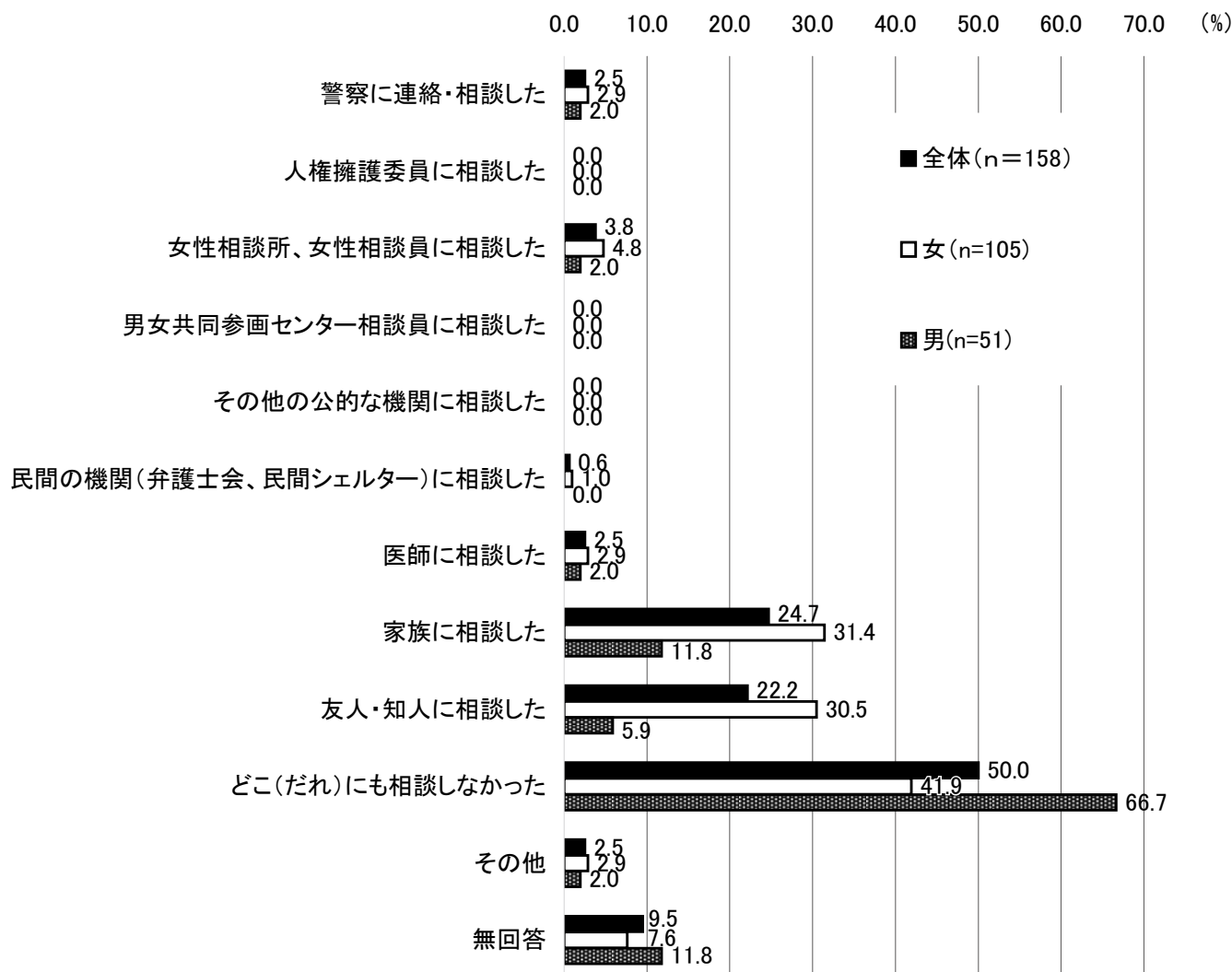
あなたは、問(20)であげたような夫や妻又は恋人からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(○はいくつでも)

配偶者から暴力を受けた時、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が5割
相談しなかった人の割合は女性より男性の方が高い

■全体では、「どこ(だれ)にも相談しなかった」との回答が50.0%と最も多く、次いで「家族に相談した」(24.7%)となっている。

■性別にみると、「どこ(だれ)にも相談しなかった」と「無回答」を除く何らかの相談をしていると回答した人の割合は、女性が50.5%で男性の21.5%より高くなっている。
相談先としては男女とも「家族に相談した」、「友人・知人に相談した」が多くなっている。

図表21-1 配偶者からの暴力を受けた時の相談



(22) 配偶者等から暴力を受けたときに相談しなかった理由
どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。

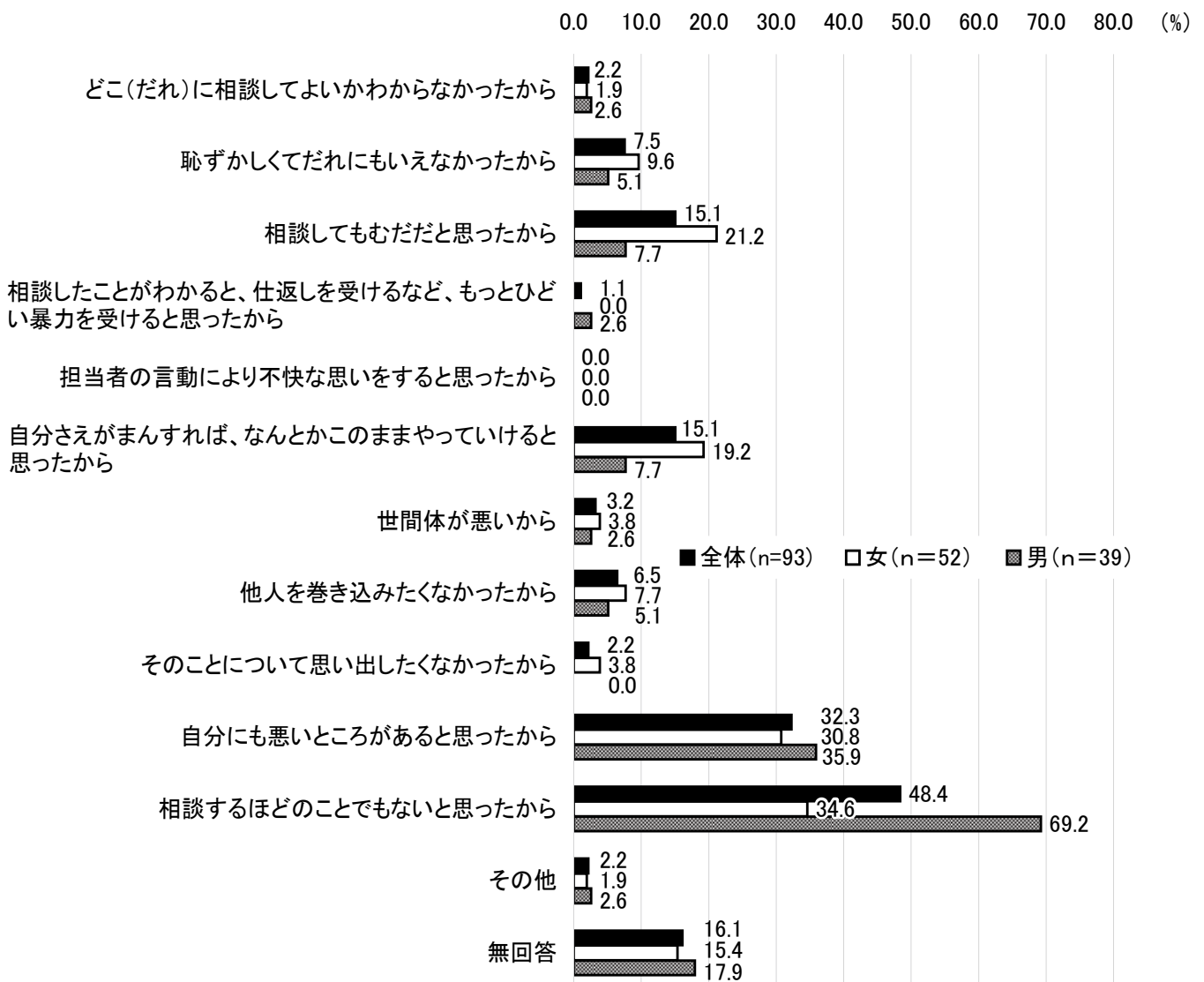
(○はいくつでも)

配偶者等からの暴力を相談しなかった理由は、
「相談するほどのことでもないと思ったから」が5割弱

■全体では、「相談するほどのことでもないと思ったから」との回答が48.4%と最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」(32.3%)となっている。

■性別にみると、男女とも「相談するほどのことでもないと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」の順に回答する人が多かった。女性では次いで「相談してもむだだと思ったから」(21.2%)、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(19.2%)となっている。

図表22-1 配偶者等から暴力を受けた時に相談しなかった理由



(23) 配偶者等に対して暴力を行った経験の有無

あなたは、あなたの夫や妻又は恋人に対して、次のようなことを行ったことがありますか。

(○はいくつでも)

配偶者等に対して何らかの暴力を行った経験があるのは、
女性が2割強、男性が3割半ば

- 全体では、「暴力を行った経験が全くない」(56.8%)と「無回答」(16.5%)を除いた26.7%の人は何らかの暴力を行った経験があると回答している。行った暴力の中では「大声でどなった」が22.4%と最も多く、次いで「何を言っても無視し続けた」(3.3%)となっている。
- 性別でみると、何らかの暴力を行った経験のある人は男性で34.7%であり、女性の21.2%より13.5ポイント上回っている。男女とも「大声でどなった」が最も多くなっている。

図表23-1 配偶者に対して暴力を行った経験の有無



(24) メディアにおける性・暴力表現についての意識

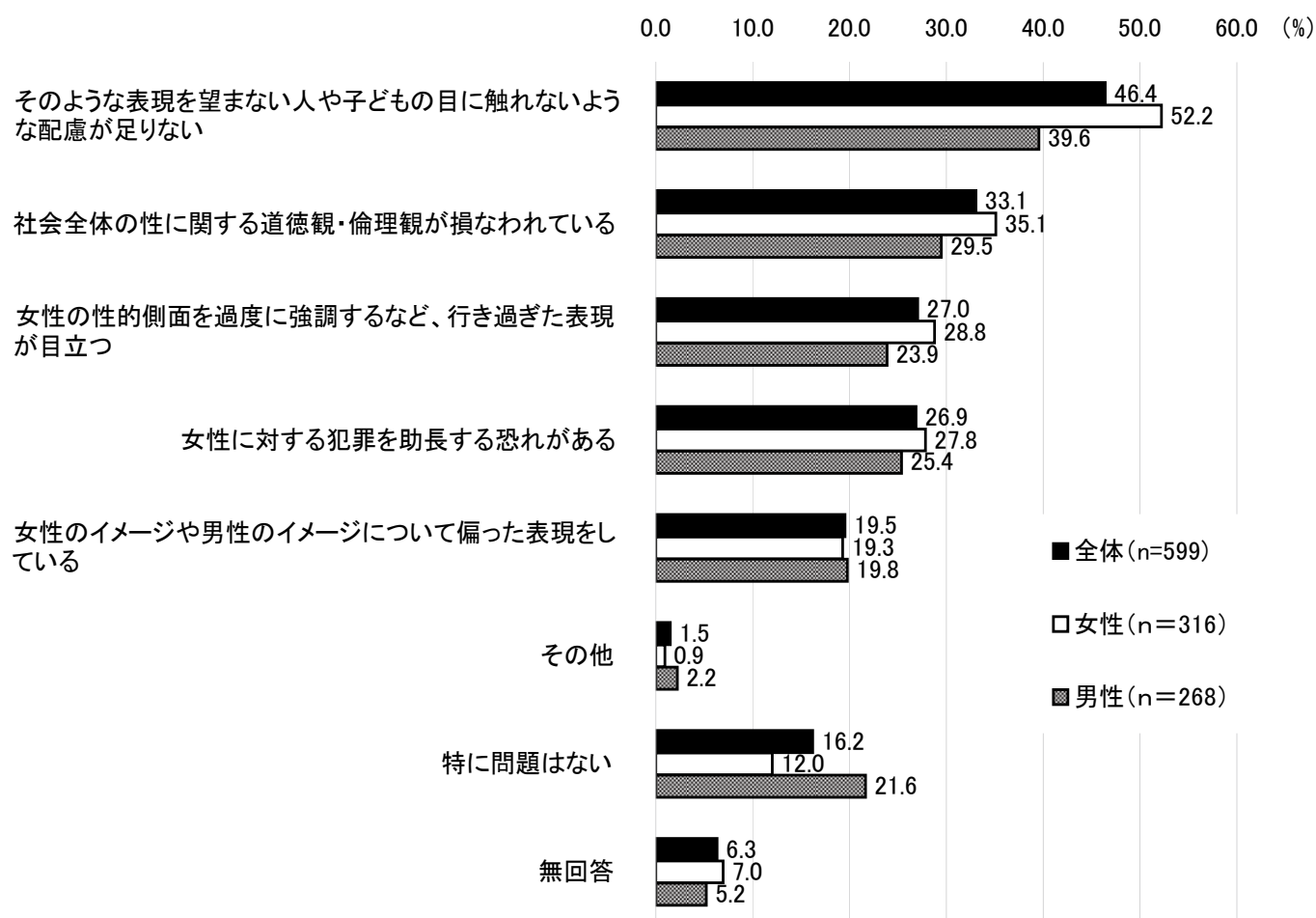
テレビ・新聞・雑誌等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのようにお考えですか。
(○はいくつでも)

メディアにおける性・暴力表現についての意識は、
「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が4割半ば

■全体では、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」との回答が46.4%と最も多く、次いで「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」(33.1%)、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」(27.0%)となっている。

■性別でみると、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」との回答は女性で52.2%であり、男性の39.6%より12.6ポイント高く、「特に問題はない」との回答では、男性で21.6%であり、女性の12.0%より9.6ポイント高くなっている。

図表24-1 メディアにおける性・暴力表現についての意識



(25) 女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために必要なこと

女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために、特にどのようなことが大事だと思いますか。

(○は3つまで)

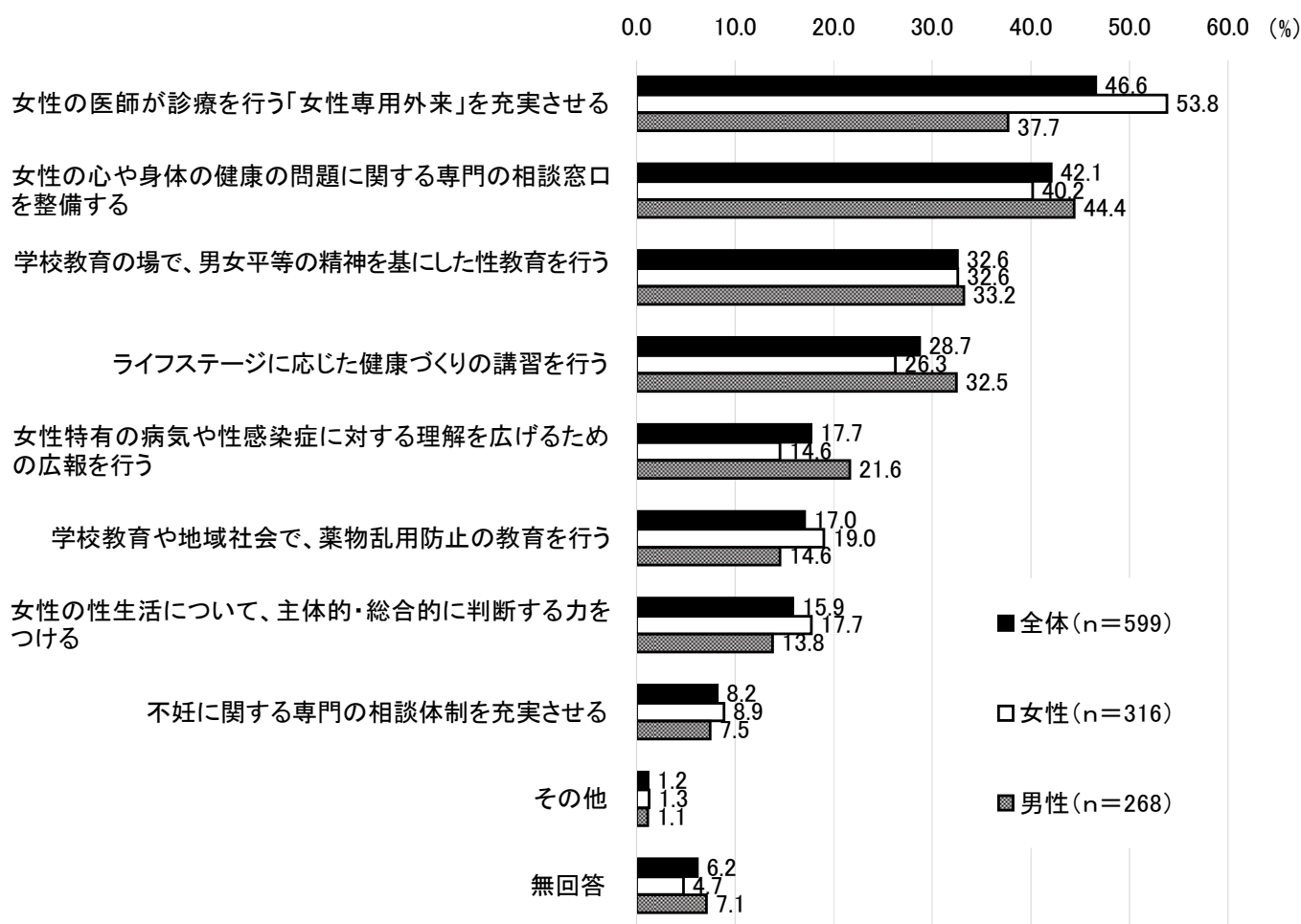
女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために必要なことは、
「女性の医師が診療を行う『女性専用外来』を充実させる」が4割半ば

■全体では、「女性の医師が診療を行う『女性専用外来』を充実させる」が46.6%と最も多く、次いで「女性の心や身体の健康の問題に関する専門の相談窓口を整備する」(42.1%)、「学校教育の場で、男女平等の精神を基にした性教育を行う」(32.6%)となっている。

■性別でみると、「女性の医師が診療を行う『女性専用外来』を充実させる」との回答は女性で53.8%であり、男性の37.7%より16.1ポイント高くなっている。

一方、女性より男性が回答した割合が多いのは「ライフステージに応じた健康づくりの講習を行う」「女性特有の病気や性感染症に対する理解を広げるための広報を行う」となっている。

図表25-1 女性が心身ともに健康であるために必要なこと



8 男女共同参画施策について

(26) 町が推進すべき男女共同参画施策について

「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、町は特にどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(〇は3つまで)

町が推進すべき男女共同参画施策としては、
「働きやすい職場環境の整備」が5割半ば

■全体では、「働きやすい職場環境の整備」と回答した人の割合が56.6%と最も多く、次いで「学校教育における男女平等教育の推進」(39.9%)、「保育・介護に関する福祉の充実」(34.6%)となっている。

■性別でみると、男女とも「働きやすい職場環境の整備」との回答が最も多く、次いで「学校教育における男女平等教育の推進」が多くなっている。

図表26-1 町が推進すべき男女共同参画施策

